

概要
版

龍郷町 男女共同参画に 関する住民意識 調査報告書

2024年3月

大和村、宇検村、瀬戸内町、龍郷町の奄美大島4町村は、男女共同参画推進総合計画の策定に向けて住民の意識や現状を把握するため、共同で調査を実施しました。

目次

I 調査の概要	1
II 調査結果	
1 調査結果の概要	2
2 男女の地位の平等感について	3
3 固定的な性別役割分担意識について	10
4 家庭生活・地域活動について	13
5 子育てに関する考え方について	16
6 職業生活について	18
7 ジェンダーに起因する暴力について	19
8 男性としての生きづらさについて	22
9 生活上の困難について	24
10 男女共同参画施策について	28
11 男女共同参画社会の実現に向けての意見・要望	29

I 調査の概要

1 調査の目的

住民の男女平等感やジェンダーに関する意識、家庭や職場、地域における現状、抱えている困難な問題を把握し、男女共同参画社会の形成に向けた施策や地域づくりの参考にする。

2 調査の方法

- (1) 対 象 18 歳以上で龍郷町に居住する住民
- (2) 抽出方法 住民基本台帳からの無作為抽出
- (3) 回収状況 配布数：2,000 回収数：587（回収率 29.9%） 有効回収数：564（有効回収率 28.2%）
- (4) 調査期間 2023 年 8 月 7 日～25 日
- (5) 調査方法 大和村、宇検村、瀬戸内町の 3 町村と同じ調査票により共同で実施し、郵送による配布・回収

3 回答者の属性 単位：%

(1) 性別

	女 性	男 性	それ以外	無回答
割 合	56.6	41.1	0.2	2.1

(2) 年代

	18～29 歳	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 歳以上	無回答
総 計	6.0	11.2	15.6	17.4	19.5	16.7	8.9	4.8
女 性	6.9	12.2	14.7	20.1	21.0	14.4	6.9	3.8
男 性	5.2	9.9	17.2	14.7	18.1	20.3	11.2	3.4

(3) 結婚の状況

	結婚している	事実婚	離別・死別	未婚	無回答
総 計	64.9	1.4	14.2	16.0	3.5
女 性	62.4	1.6	16.9	17.2	1.9
男 性	70.7	0.9	11.2	14.7	2.6

(4) 世帯構成

	単身世帯	夫婦世帯	二世帯世帯	三世帯世帯	その他	無回答
総 計	20.4	33.0	35.5	1.4	2.5	7.3

(5) 夫婦の就労状況

	二人とも仕事がある	自分のみ仕事がある	配偶者のみ仕事がある	どちらも仕事がない	その他	無回答
総計 (n=374)	60.2	8.8	9.6	14.2	1.1	6.1
女性 (n=204)	64.2	5.9	7.4	12.7	2.0	7.8
男性 (n=166)	56.0	12.7	12.0	15.7	0.0	3.6

(6) 仕事の状況

	正規雇用	非正規雇用	自営業主	家族従業者	無職	その他	無回答
総 計	33.0	18.8	9.2	1.2	30.1	1.2	6.4
女 性	28.8	27.3	5.0	1.6	30.4	2.2	4.7
男 性	39.7	8.2	15.5	0.9	30.6	0.0	5.2

※本書では、自営業主と家族従事者を「自営業者」という。

(7) 子どもの年齢（複数回答）

	乳幼児	小学生	中学生	高校・高専生・専門学校・短大・大学生	未婚の子ども	既婚の子ども
総 計	8.0	11.0	5.3	9.6	20.2	16.1
女 性	8.8	10.3	5.0	10.0	20.7	15.7
男 性	7.3	12.5	6.0	9.5	20.3	17.2

注：「小学生」：2011 年 4 月 2 月～2017 年 4 月 1 日生まれ

「中学生」：2008 年 4 月 2 月～2011 年 4 月 1 日生まれ

「未婚の子ども」：2008 年 4 月 1 日以前生まれの未婚（学生除く）

「既婚の子ども」：2008 年 4 月 1 日以前生まれで既婚（学生除く）

II 調査結果

1 調査結果の概要

■男女の地位の平等感

- ・ 男性の方が優遇されていると回答する割合が高い分野は、政治の場、社会通念・慣習・しきたり。
- ・ 町全体で見た場合は、約6割が男性が優遇されていると回答。
- ・ 平等と回答した割合は、女性より男性が高い。男性の方が優遇されていると回答した割合は、男性より女性が高く、中でも30代と40代の女性の不平等感が強い傾向にある。
- ・ 女性の方が優遇されていると思っている割合は、どの分野・年代で低いが、40代男性が職場や法律・制度の上で他の性・年代より高い傾向にある。

■固定的な性別役割分担についての意識と実態

- ・ 固定的な性別役割分担の考え方を否定する割合は、男女とも肯定する割合を大きく上回るが、女性が男性より高く、特に40代が高い。一方、肯定する割合は、男性で年代が高いほど高い傾向にある。
- ・ 男女ともほとんどが、性別にかかわらず経済力や生活力をつける教育や育て方が必要と回答している一方、男の子は男の子らしく、女の子は女子らしく育てたほうがよいと回答した割合は、70代男性は7割を超え、40代以下の女性は2割以下など、性別と年代によって大きな開きがある。
- ・ 家事、育児、介護・看護については、男女とも妻が多く分担していると回答した割合が高いが、地域活動については、女性は妻が多く分担、男性は夫が多く分担と回答した割合が高い。

■職業・職場生活

- ・ 子どもができて、ずっと職業をもち続ける方がよいと回答した割合は男女とも高いものの、男性より女性が高く、年代が高いほど低い傾向にある。
- ・ 女性は、職場における男女の格差はよいと回答した割合が最も高いものの、40代は格差があると回答した項目が多い。40代男性では、男性が育児・介護休業を取得しづらいと回答した割合は4割を超える。

■デートDV・DV

- ・ 40代女性の約4割は、10～20代にデートDVの被害経験があると回答。
- ・ 結婚（事実婚を含む。）経験のある女性のうち、DVの被害経験があると回答した割合は2割超で、40代と70代は3割を超える。無回答者の割合が高いことから、被害経験者の割合はもっと高い可能性がある。
- ・ デートDVやDVの被害経験者のうち、誰（どこ）にも相談しなかった男性は約5割、女性は約4割。

■男性の生きづらさや不便さ

- ・ 男性としての生きづらさや不便さを頻繁に感じる、又はたまに感じると回答した男性の割合は、全体で4分の1で、若い年代ほど高い傾向にある。

■生活上の困難（生活困窮、働く機会・場、健康、孤独、困っている時の支援、家族関係、災害や事件・事故）

- ・ 生活の様々な場面で不安や困難を感じている割合は、総じて女性が男性を上回り、健康で5割を超え、災害や事件・事故で男女の差が大きい。40代と未婚の女性で不安や困難を感じると回答した割合が高い。
- ・ 相談窓口に対するニーズは、年代にかかわらず広範にわたり高く、特に電話や匿名による相談、DV等の専門相談員のニーズが高い。

■男女共同参画社会を実現するための役場の施策

- ・ 役場が力を入れるべき施策については、男女とも保育・介護サービスの充実と再就職や就労支援と回答した割合が約5割。女性は仕事と育児・介護等の両立支援制度の事業所への働きかけ、男性は政策決定の場への女性登用も4割を超える。

※本書では、回答者数が少ない18～29歳の分析を最低限にとどめています。

資料内の略記の詳記

「前回」：2013年度に本町が実施した『男女共同参画に関する町民意識調査』の結果

「奄美大島(4)町村」：2023年度に本町と大和村、宇検村、瀬戸内町が実施した『男女共同参画に関する住民意識調査』の集計結果

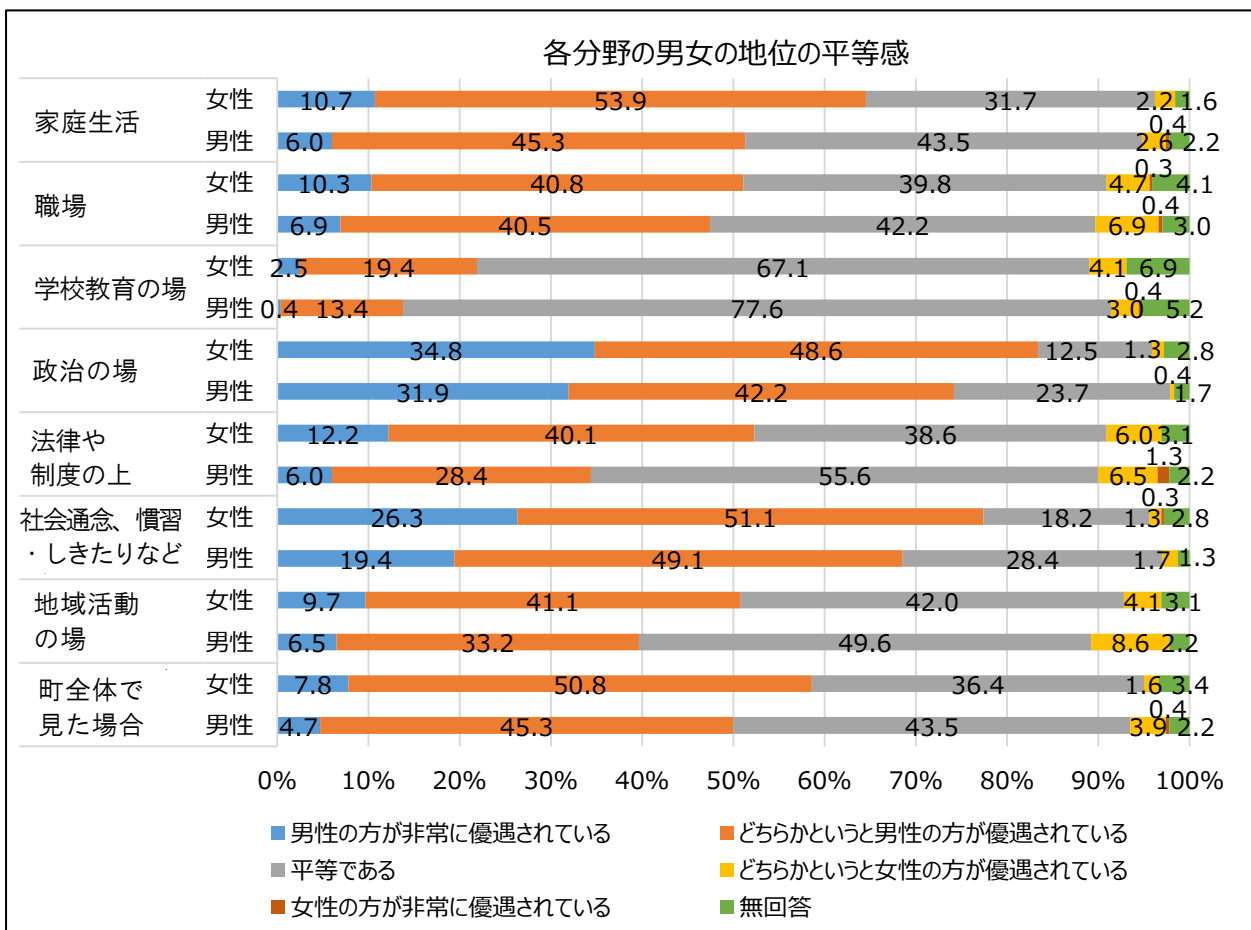
「県」：2021年度に鹿児島県が実施した『男女共同参画に関する県民意識調査』の結果

「全国」：2022年度に内閣府が実施した『男女共同参画に関する世論調査』の結果

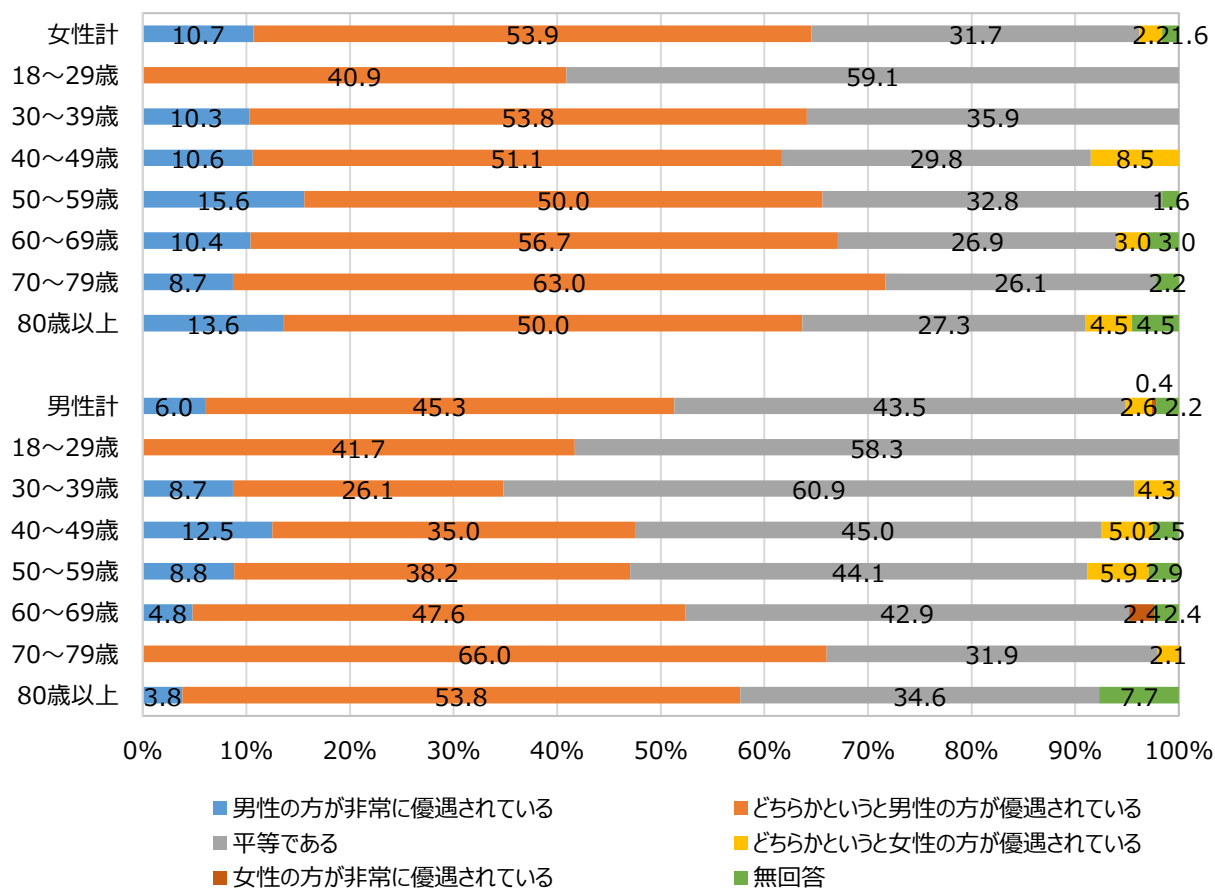
2 男女の地位の平等感について

(1) 各分野の男女の地位の平等感

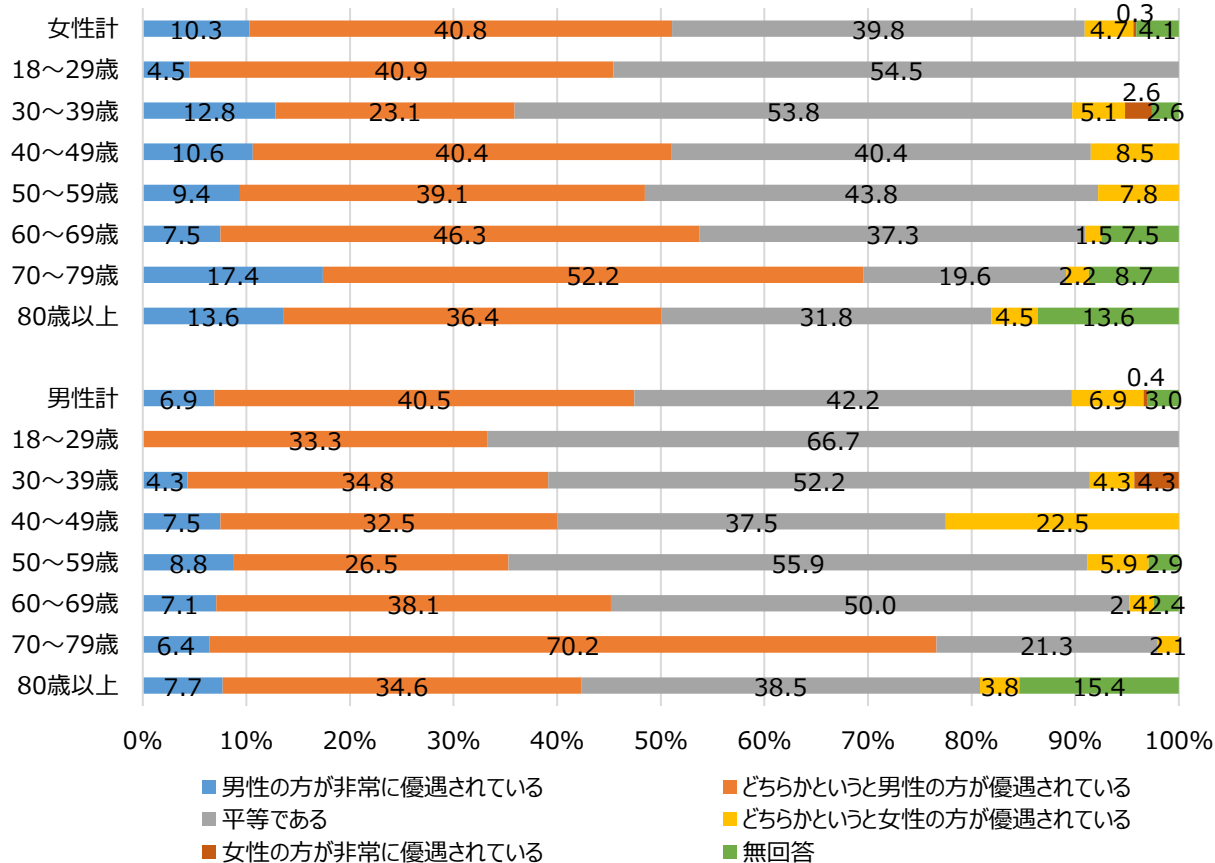
- ・ 7分野の中で、男女の地位が『平等』と回答した割合が最も高いのは「学校教育の場」。一方、『男性の方が非常に優遇』又は『どちらかといえば男性の方が優遇』（以下『男性優遇』）と回答した割合が高いのは「政治の場」、「社会通念・慣習・しきたりなど」、「家庭生活」。
- ・ 『平等』と回答した割合は女性より男性が高く、『男性優遇』と回答した割合は男性より女性が高い。男女の差が大きい分野は「法律や制度の上」と「家庭生活」。
- ・ 30～50代の女性と70代の男女は、『男性優遇』と回答した割合が高い傾向にある。
- ・ 『女性の方が非常に優遇』又は『どちらかといえば女性の方が優遇』と回答した割合は全ての性・年代で低いものの、40代男性は他の性・年代に比べて「職場」や「法律や制度の上」で高い傾向にある。
- ・ **家庭生活**において、30代以上の女性と70代男性は『男性優遇』と回答した割合が高い一方、40代以下の男性は『平等』と回答した割合が高い。
- ・ **職場**において『男性優遇』と回答した割合は、男女とも70代が最も高い。
- ・ **学校教育の場**においては、全ての年代で『平等』と回答した割合が高いものの、40代以上の女性の2割以上は『男性優遇』と回答。
- ・ **政治の場**においては、ほとんどの年代で『男性優遇』と回答した割合が7割を超え、特に40代と50代の女性と70代男性が特に高く、40代女性では『男性の方が非常に優遇』が約5割。
- ・ **法律や制度の上**においては、男性はほとんどの世代で『平等』と回答した割合が高い一方、女性は30代以上で『男性優遇』と回答した割合が高い。
- ・ **社会通念・慣習・しきたりなど**においては、全ての年代で『男性優遇』と回答した割合が高く、特に30～70代の女性と40・70代の男性で高い。うち『男性の方が非常に優遇』は40・50・70代の女性で3割を超える。
- ・ **自治会やPTAなどの地域活動の場**においては、60・80代の女性とほとんどの年代の男性で『平等』と回答した割合が高い一方、30～50代と70代の女性では『男性優遇』が『平等』より約20ポイント上回る。
- ・ **町全体で見た場合**においては、29歳以下の男女と30代男性は『平等』と回答した割合が高いが、その他の年代は『男性優遇』と回答した割合の方が高く、30～50代と70代の女性及び70代以上の男性は6割を超える。



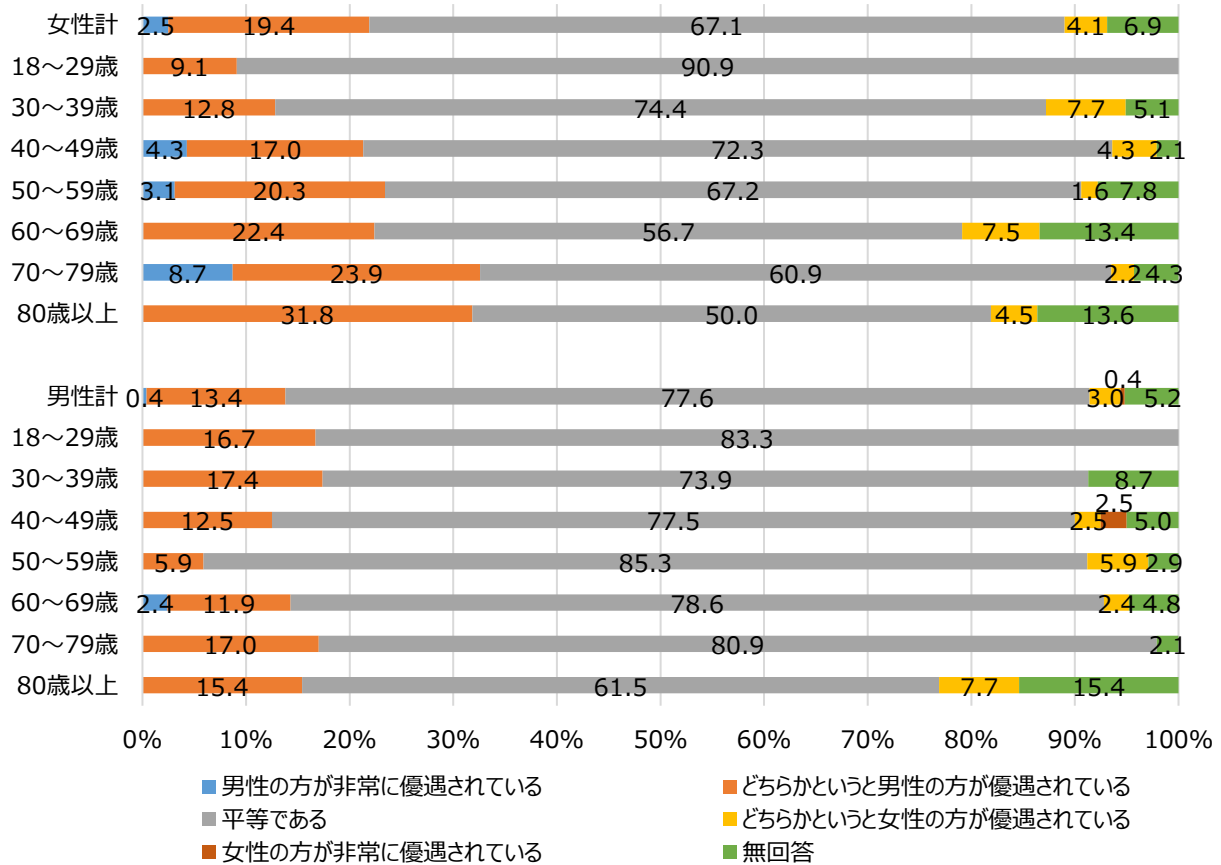
家庭生活における男女の地位の平等感



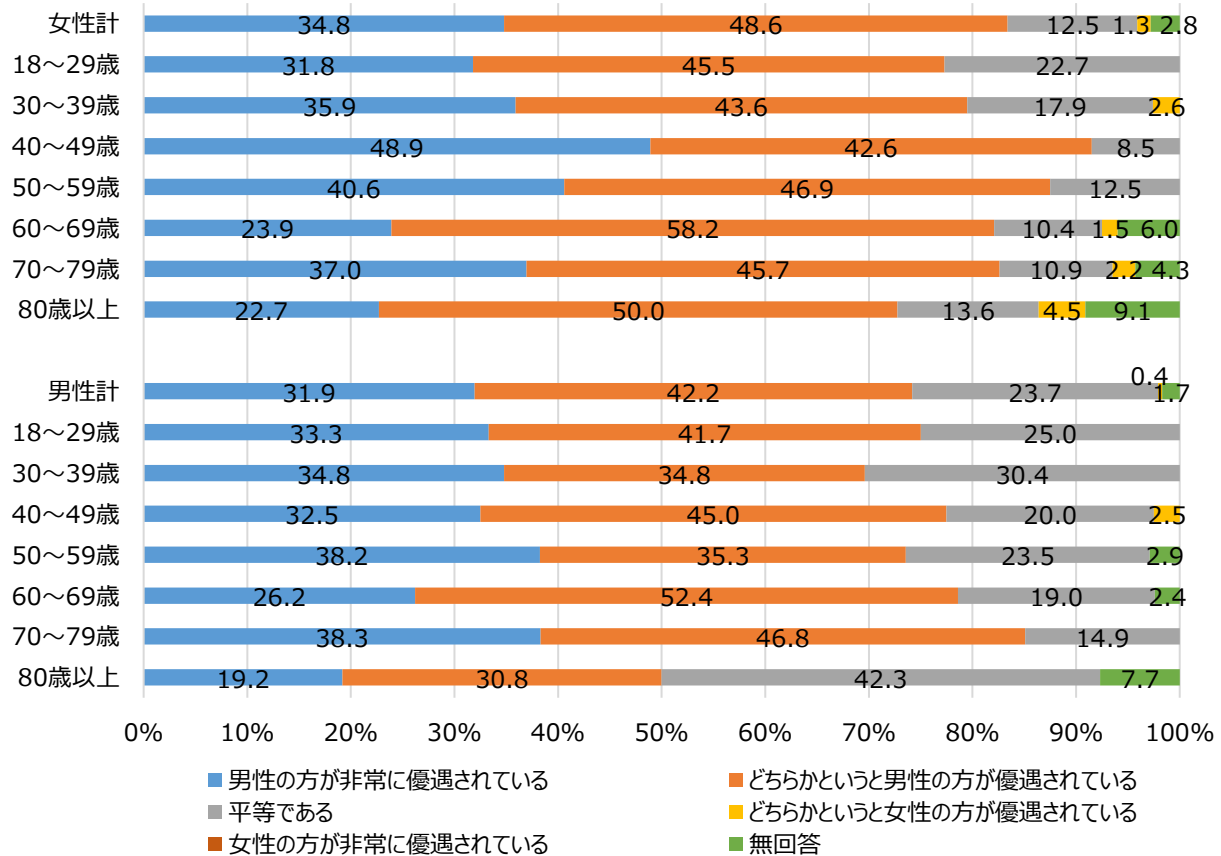
職場における男女の地位の平等感



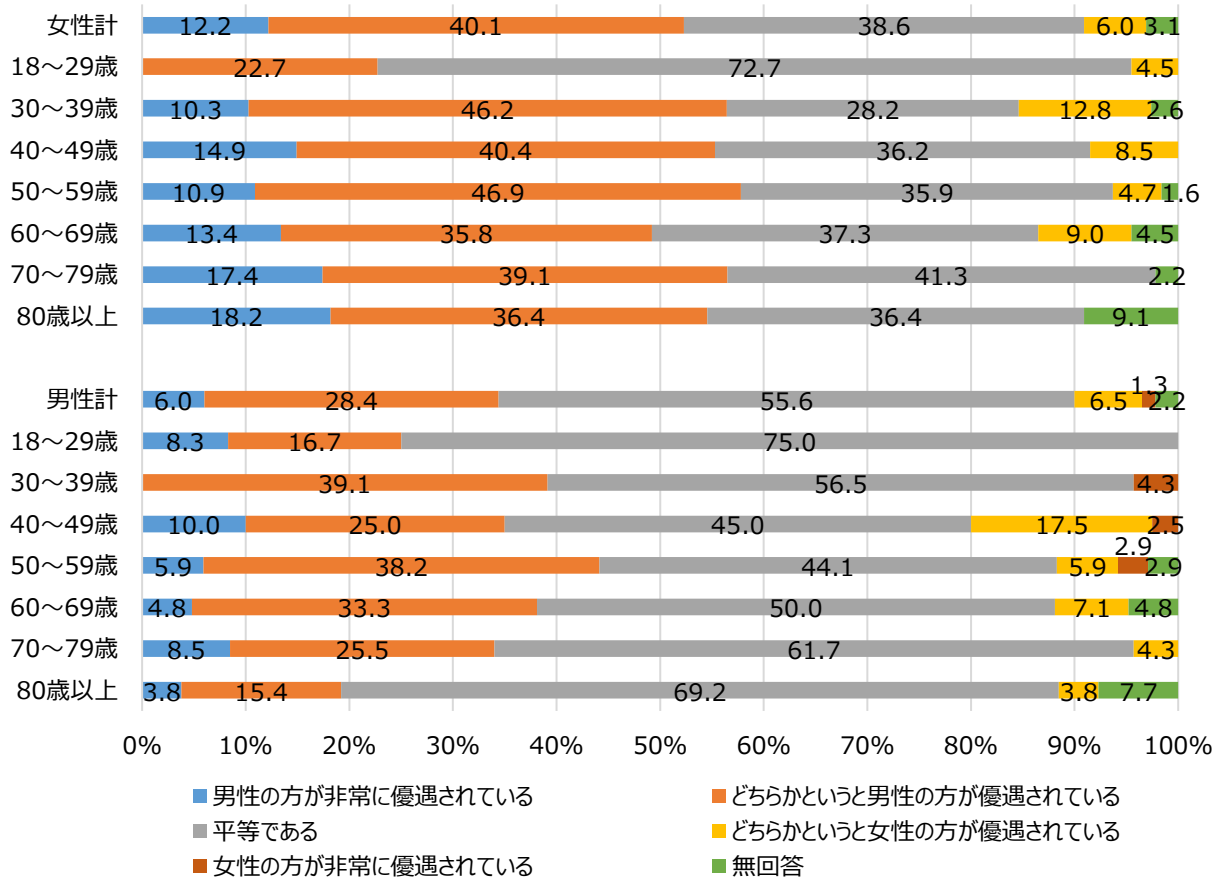
学校教育の場における男女の地位の平等感



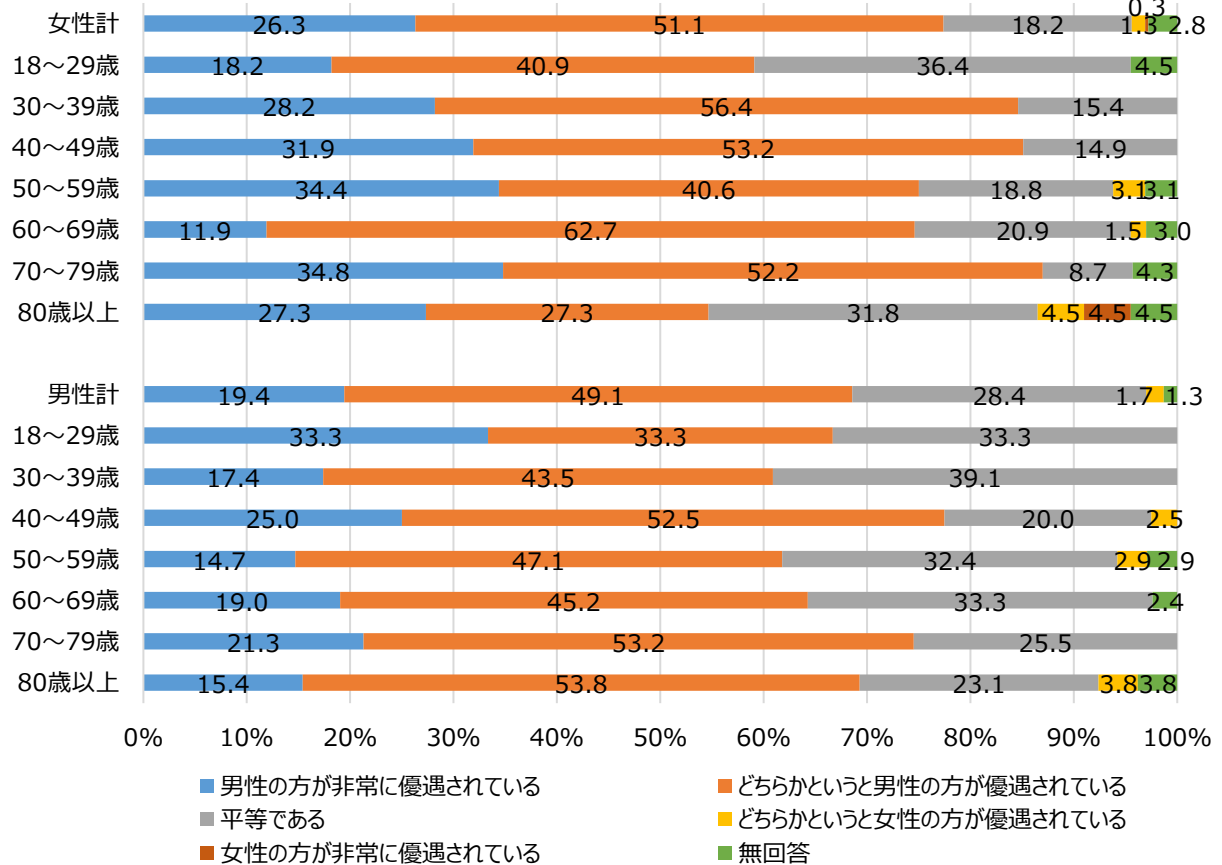
政治の場における男女の地位の平等感



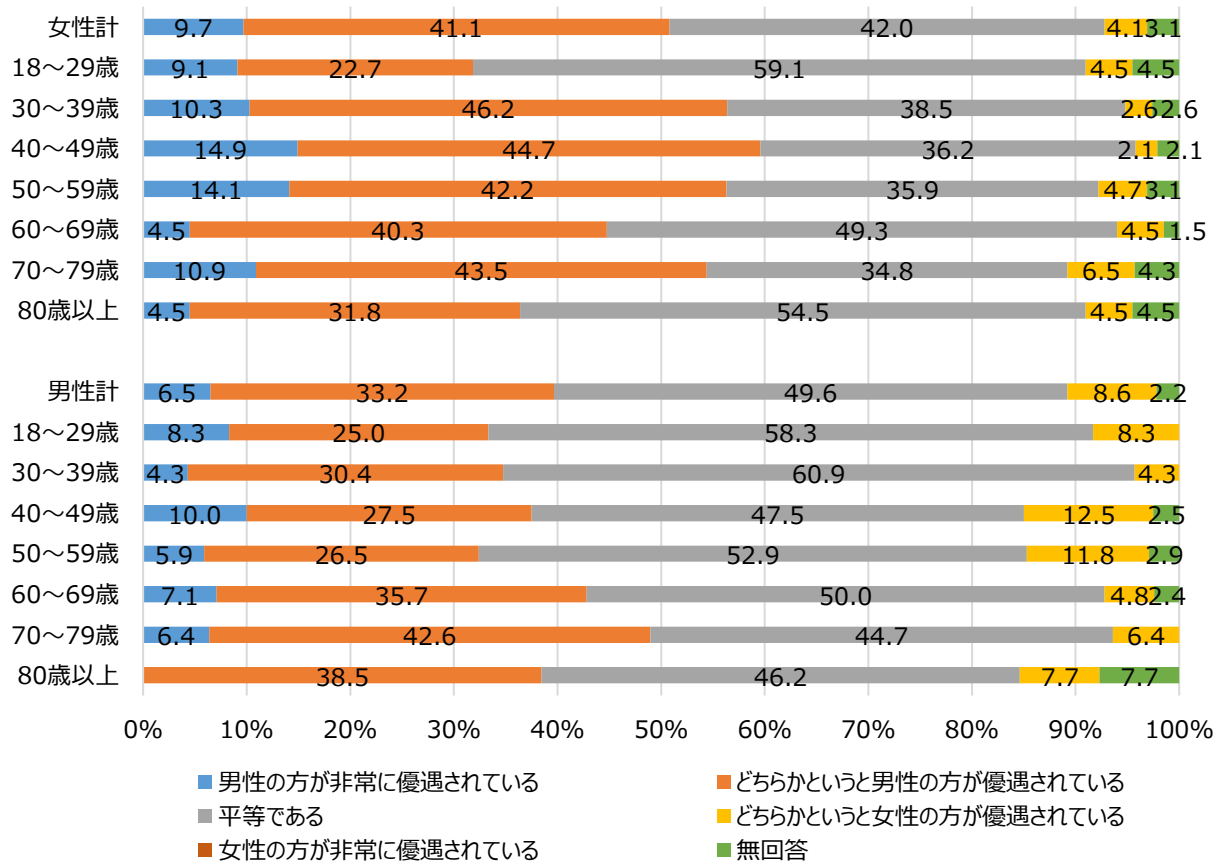
法律や制度の上の男女の地位の平等感



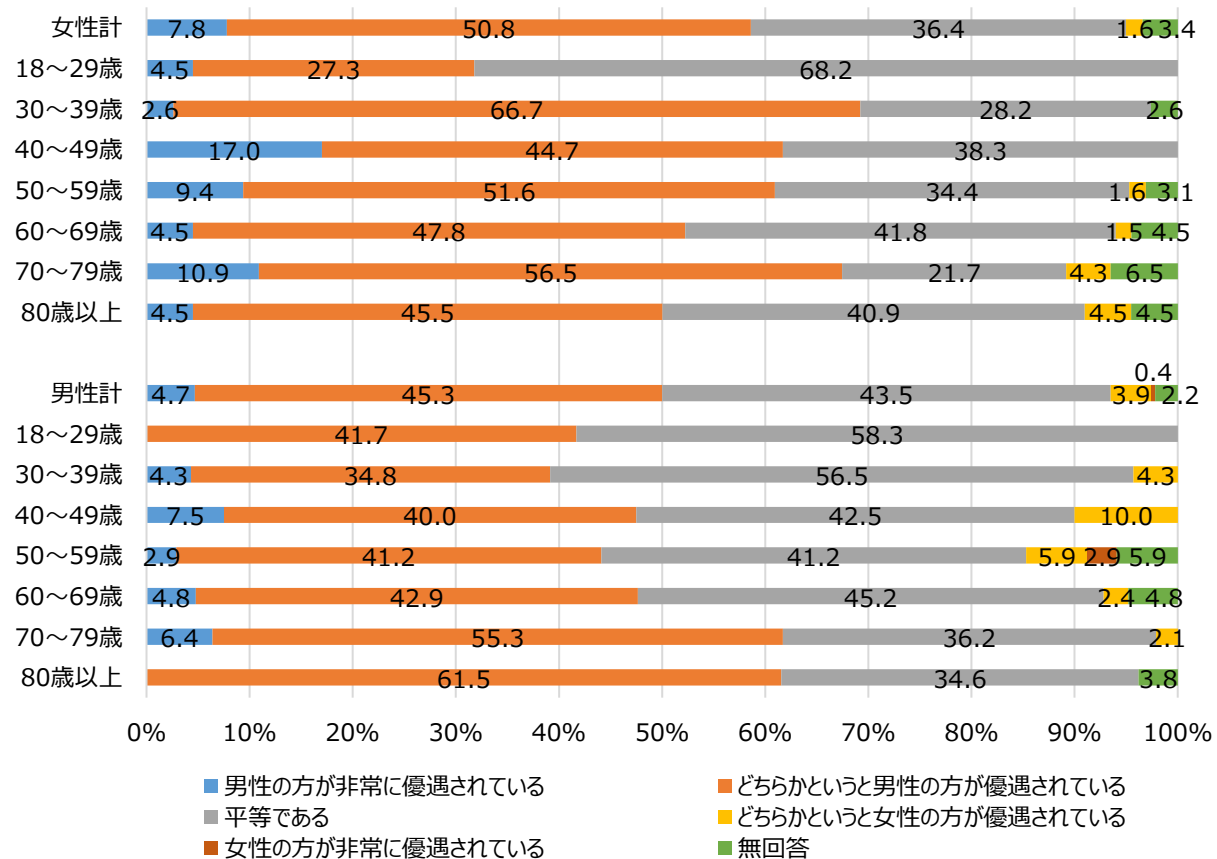
社会通念・慣習・しきたりなどにおける男女の地位の平等感



自治会やPTAなどの地域活動の場における男女の地位の平等感



町全体で見た場合の男女の地位の平等感



(2) 男女の地位が不平等と感じていること (86 件の回答のうち主な内容)

■家庭生活 (18 件)

- ・ お盆や正月等で女性は休まず炊事をし、男性は手伝うことなく団らんする昔ながらの風習がある。(30 代女性)
- ・ 女性の家事・育児は当然で、男性には評価が必要な時点で不平等。(30 代女性)
- ・ 女性が様々なことに参加できる制度の整備は必要だが、男性が女性の仕事(家事)を同じだけ負担してくれないと意味がない。家事等は「面倒くさい」「仕事で疲れている」と女性に押しつけている。まずは管理職やトップが家事をしてみていただきたい。(30 代女性)
- ・ 家事、育児、介護は女性がするものという考えが根強い、平等でない。(30・50・60 代女性、70 代男性)
- ・ 共働きでも女性の家事負担が重い。女性の方があくせく動かざるを得ない。(30・50・60 代女性)
- ・ 外で同じように仕事をしていても家事はすべて女性がするのが当たり前の環境で育った夫は、未だにその考えを変えようとせず何一つ家事を手伝わない。(50 代女性)
- ・ 未だに長男が全て相続。男の人をたてないと家庭がうまくいかないと言う人(高齢者に多い)がいる。(70 代女性)
- ・ 家庭における決定権が男の人ということが多い。(70 代女性)
- ・ 高齢ほど考え方が男性中心で、夫は妻に暴言を吐き、家主権力が強い。(70 代女性)

■職場 (17 件)

- ・ 女性は子育て、地域活動等で時間や労力を割かれ、やりたいことをやれず、社会進出は難しい。(20 代女性)
- ・ 職場で男性正社員にばかり有給休暇を取らせ、正社員が当たり前と押しつけてくる。(30 代女性)
- ・ 食器洗いは女性職員の仕事ではないので、男性(管理職)も自分で洗ってほしい。(30 代女性)
- ・ 職場では女性の方が優遇されている。(30 代男性)
- ・ 男性の方が給与・賃金が高い。(30・40 代女性、70 代男性)
- ・ 役職・管理職には男性が多く、女性が非常に少ない。(40・50・60 代女性)
- ・ 職場ではまだまだ「女は妊娠・出産ですぐ辞めるからな」という雰囲気がある。(50 代男性)
- ・ 女性は意見を言っても軽く聞き流されることが多い。(60 代女性)
- ・ 女性の正採用を控える傾向がある。(60 代男性)
- ・ 結婚で仕事を続けることができない。(60 代性別不明)
- ・ 女性に責任ある仕事を任せていない。女性の能力が正しく評価されていない。(70 代・80 歳以上男性)

■学校教育の場 (2 件)

- ・ 運動会で来賓へのお茶出しは母親が担当。学校が性別役割分担をし、それを是とする教育をしている。(40 代女性)
- ・ 大人が減って、子どもが増えている。女性の先生を子育ての補助など優遇してほしい。(40 代男性)

■政治・行政の場 (6 件)

- ・ 女性町議員が少ないことを補い、女性の意見を市政に反映するための努力を何もしていない。(40 代女性)
- ・ 女性町議会議員が少ない。(40・50・60・80 歳以上女性、70 代男性)
- ・ 女性は政治に参加したくても、どんなに能力があっても、育児、介護があり、家庭を守る立場にあり、表舞台に出ることはできない。男女(夫婦)フェアな生活を行政にもサポートしてほしい。男性もヨーロッパや諸外国のことを勉強してほしい!(50 代女性)
- ・ 役場の幹事職員・管理職に女性が少ない。(60 代女性、70 代・年代不明男性)

■法律や制度の上 (4 件)

- ・ 結婚したらほとんどの場合、女性が姓を変えなければならない。(30 代女性)
- ・ 母子家庭と父子家庭で行政の支援に差がある。(60 代男性)
- ・ 役場からの文書の宛名に(夫名)様方(妻名)様と記されていることが多く、妻としては違和感がある。(70 代女性)
- ・ 配食弁当は娘が同居していると利用できない。息子なら可能か?(年代・性別不明)

■社会通念・慣習・しきたりなど (13 件)

- ・ 男性中心で物事が進む。女性はそのに加わりにくい風潮がある。(20 代女性)
- ・ 集落のお酒の場は男女不平等・男性優位。飲み方も行事も男性は座って飲むだけで、女性ばかり片付けや料理と忙しい。子ども達に引き継ぎたくない文化 (20・30・40・60 代女性、70 代男性)
- ・ 男性が偉そうに「おい」「おまえ」とか言う。封建的で今どきあり得ないくらい古い。(40 代女性)
- ・ しきたりが根強い (60 代女性)
- ・ 集落の会で発言したら「女ぐむんぬ」と言われたことがあった。(60 代女性)
- ・ 特に高齢の男性は女性蔑視の傾向にあり、接待の場に女性を出すことを当たり前と思っている。(60 代女性)
- ・ 様々なお祝いなどの席は男性中心で、女性は別部屋で集まっている。(60 代男性)
- ・ 地域コミュニティでは男性の意見を重視していることが多い。(70 代女性)
- ・ 各行事で女性が行う仕事の負担が大きい。(70 代女性)

■自治会や PTA などの地域活動の場 (7 件)

- ・ 婦人会の活動の負担が重すぎる。(40 代女性)
- ・ 地域行事で婦人会は料理、掃除を担当し、座れない、料理を食べられない、会によっては会費も取られる。男性は片付け程度はするが、酒を飲み、座って料理を食べる。男尊女卑を感じ、住み続けたいと思えない。乳幼児がいても夜の集まりに夫がかり出されることが多く、母親が見ていれればいいという考えが定着。とてもしんどい。(40 代女性)
- ・ 婦人会や地女連は、男女が平等に社会参加できるよう規約を変更したり、名称を変えるべき。(40 代男性)
- ・ 役員や会長を男性に押しつけられる。(50 代男性)
- ・ 町内の区長等は男女で活動している。(70 代男性)
- ・ 地域の集い(祝い・会合・作業等)は男性が主。(80 歳以上女性)
- ・ 各種団体の役員選出で「男の人でなければいけません」という女性の声が多い。女性の側にも問題がある。(80 歳以上男性)

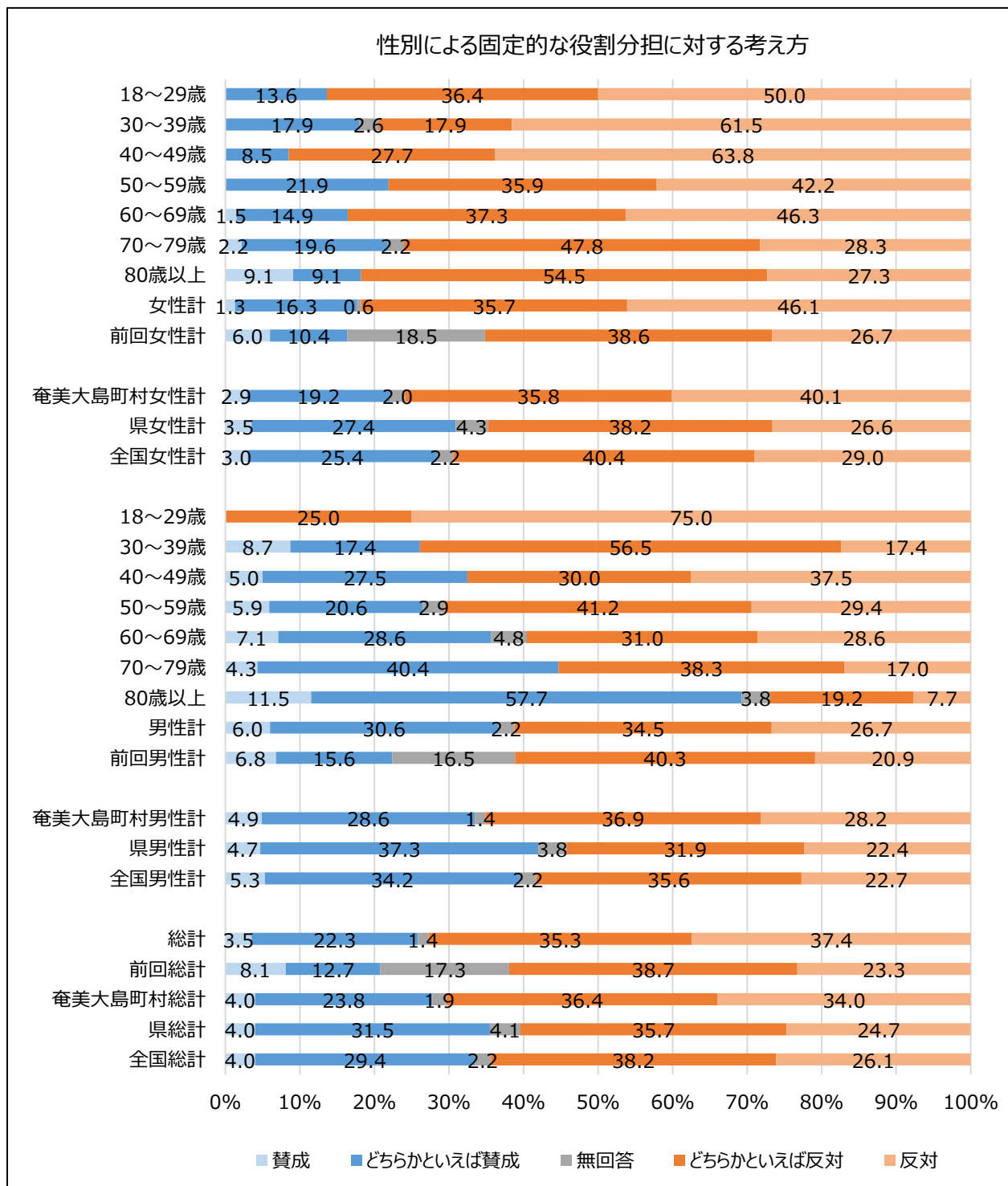
■その他 (17 件)

- ・ そもそも平等について話し合っていることが、平等に日常を過ごすことができていない現状を表しているように思う。(10 代男性)
- ・ 女性の立場は下に見られがち。(30 代女性)
- ・ 日常的に男尊女卑を感じる場面がまだまだ多い。(30 代女性)
- ・ 法律等で仕方なくとも男女でしか分けられない時点で不平等。男女ではなく一個人として様々な選択が可能に。(30 代男性)
- ・ 高年齢層ほど男女差別の傾向が強く残っている。(40 代男性)
- ・ 地域の中では女性の地位はまだまだで、不平等。(50 代女性)
- ・ 意識調査で女性が仕事を持つことについて質問があること自体不平等と感じる。(50 代女性)
- ・ 近年は女性が優遇されすぎているように感じる。(50 代男性)
- ・ 女性議員数や会社の女性役員の数などは、世界の中で日本は下位にある。(70 代女性)
- ・ 女性は行うことが多く、男性より生きていく上で大変で、男に生まれれば良かったと思う。(年代不明女性)

3 固定的な性別役割分担意識について

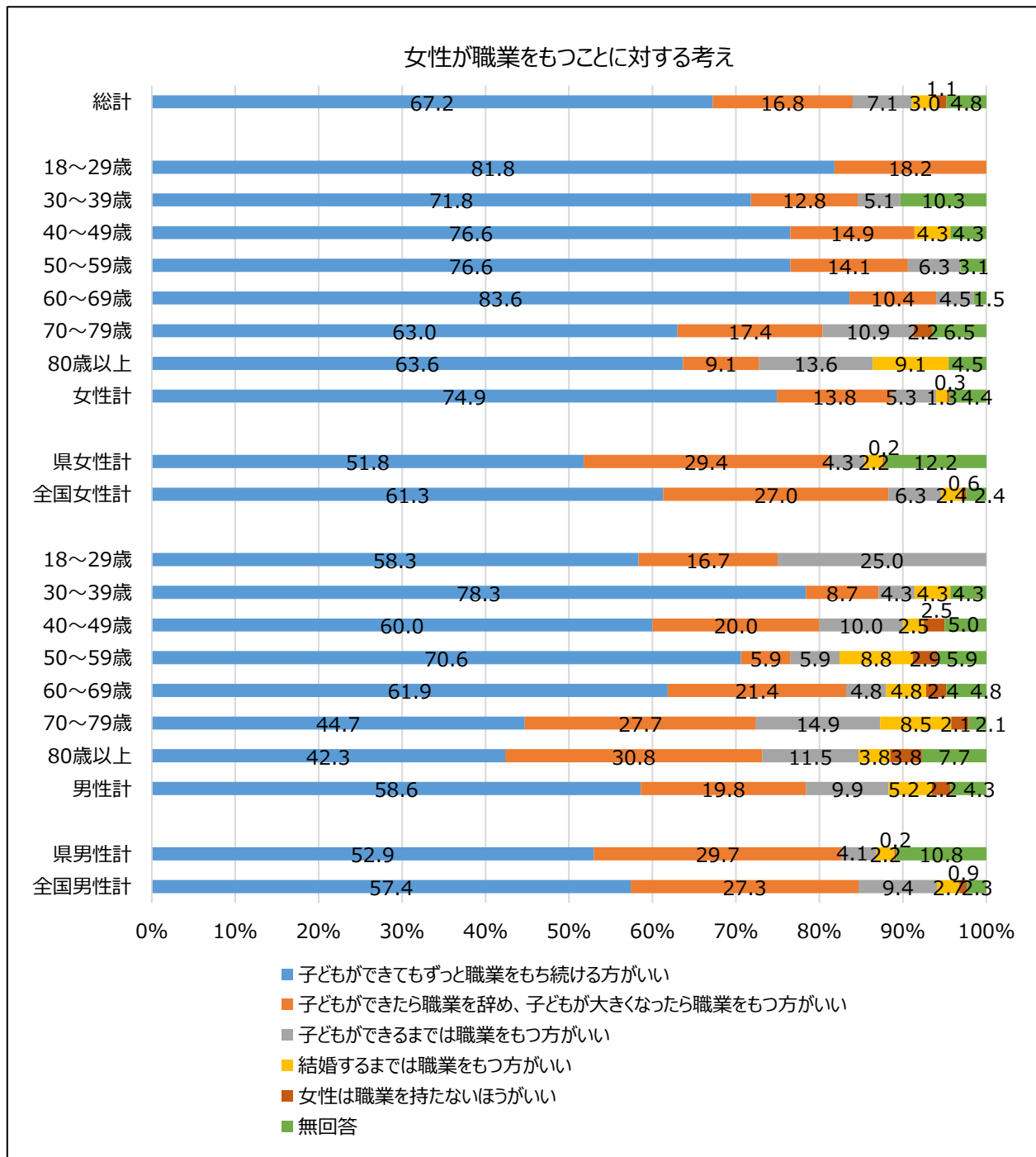
(1) 性別による固定的な役割分担に対する考え方

- ・ 「男性(夫)は外で働き、女性(妻)は家庭を守るべきである」といった性別を理由に役割を固定的にわける考え方について、「反対」又は「どちらかという反対」(以下『否定』)と回答した割合が、「どちらかという賛成」と「賛成」を合わせた『肯定』を大きく上回り、女性は8割、男性は6割を超えている。
- ・ 前回調査と比較すると、女性は『否定』、男性は『肯定』と回答した割合が上昇。
- ・ 県及び全国と比較すると、男女とも『否定』の割合が上回り、特に女性の「反対」と回答した割合が大きく上回る。
- ・ 『肯定』と回答した割合は、男性は年代が高いほど高くなる傾向があり、80歳以上は約7割。
- ・ 『否定』と回答した割合は、40代女性が9割を超え、「反対」と回答した割合は30代女性とともに6割超。



(2) 女性が職業を持つことに対する考え

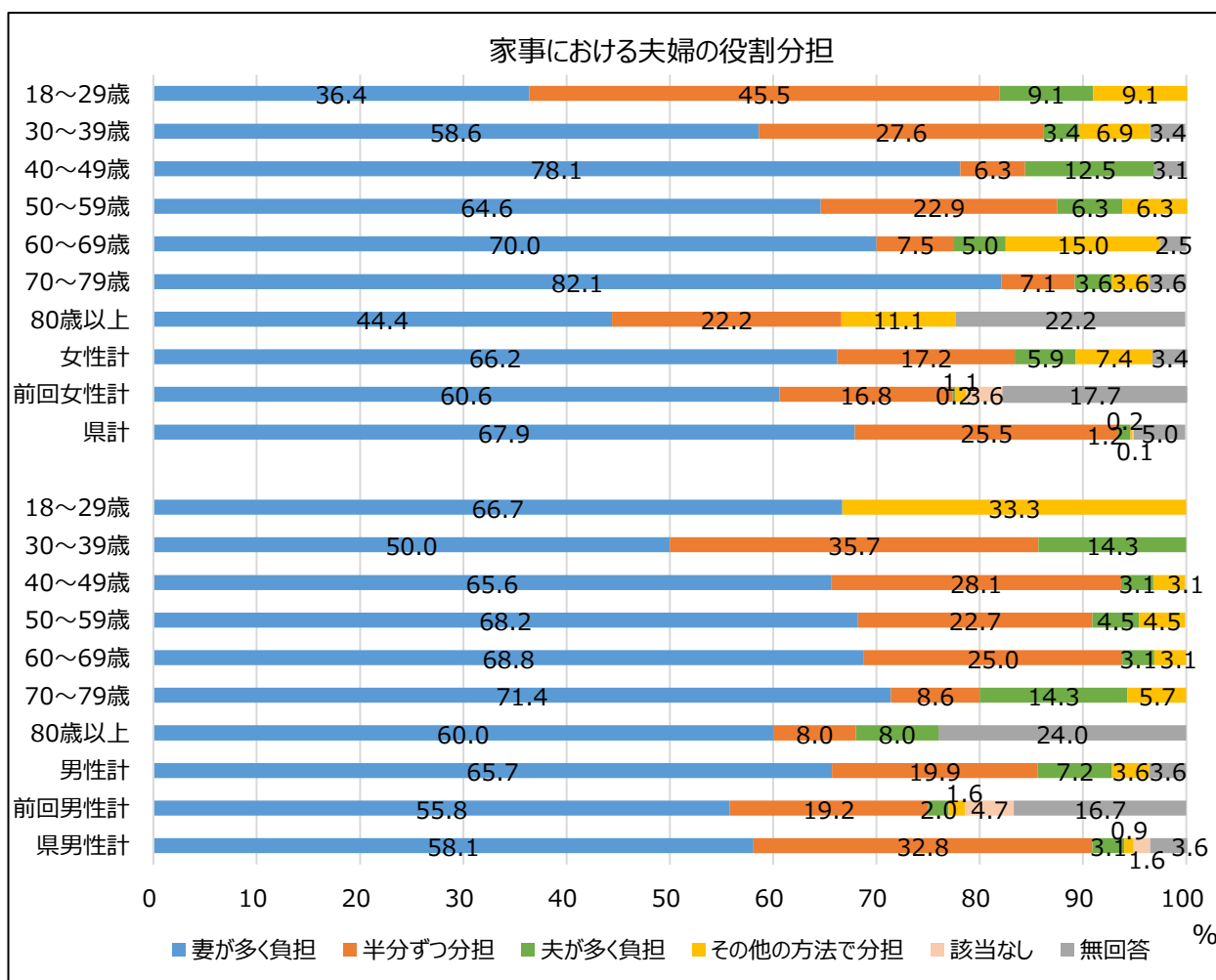
- ・ 女性が職業を持つことについて、『子どもができて、ずっと職業をもち続ける方がよい』と回答した割合が男女とも最も高く、女性が男性を上回る。
- ・ その割合は、年代が高いほど低い傾向にあり、70代以上男性では『子どもができたなら職業をやめ、子どもが大きくなったら職業をもつ方がよい』又は『子どもができるまでは、職業をもつ方がいい』と回答した割合と同程度でともに約4割。
- ・ 『子どもができて、ずっと職業をもち続ける方がよい』と回答した割合は、県及び全国の割合を上回る。

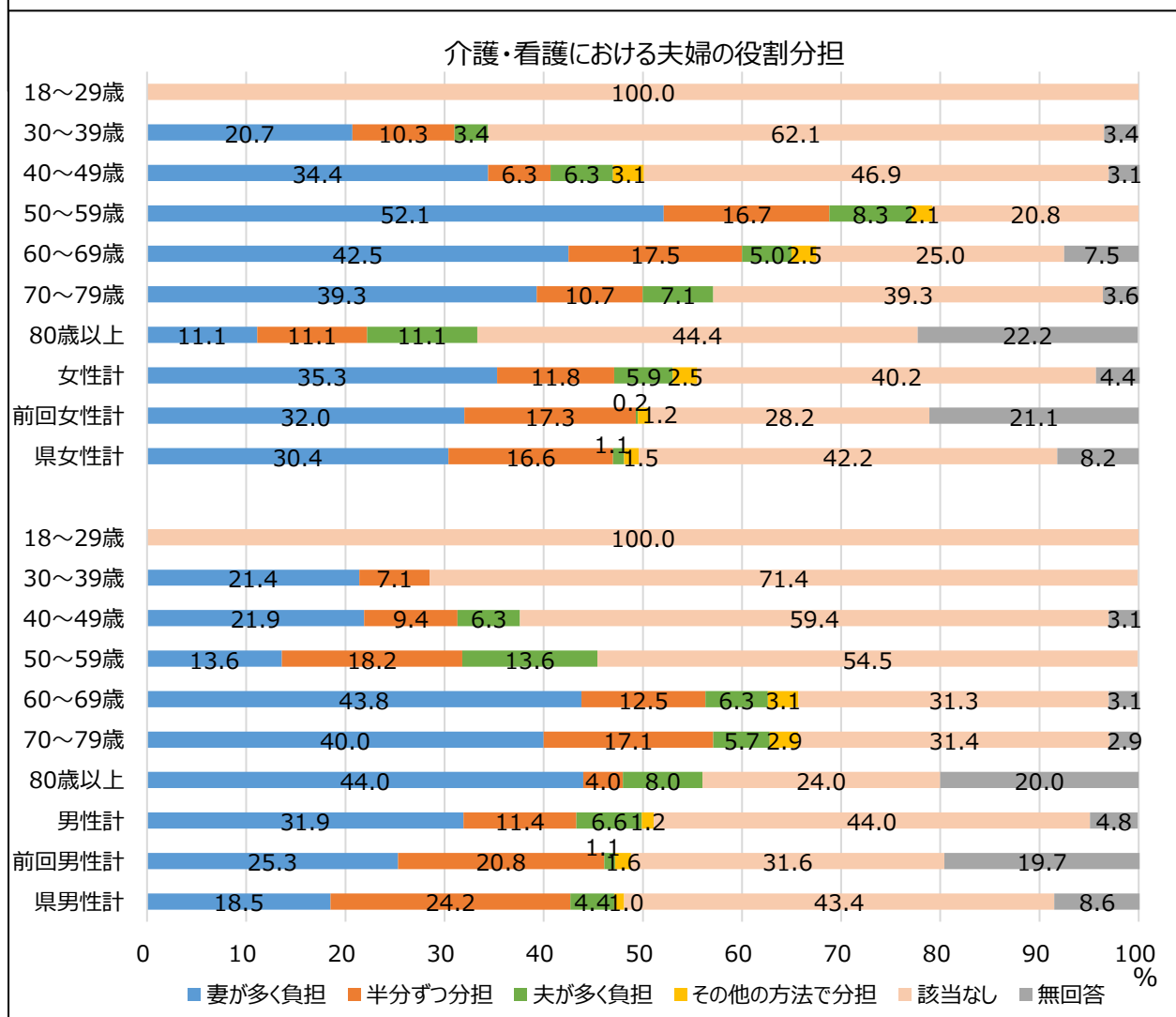
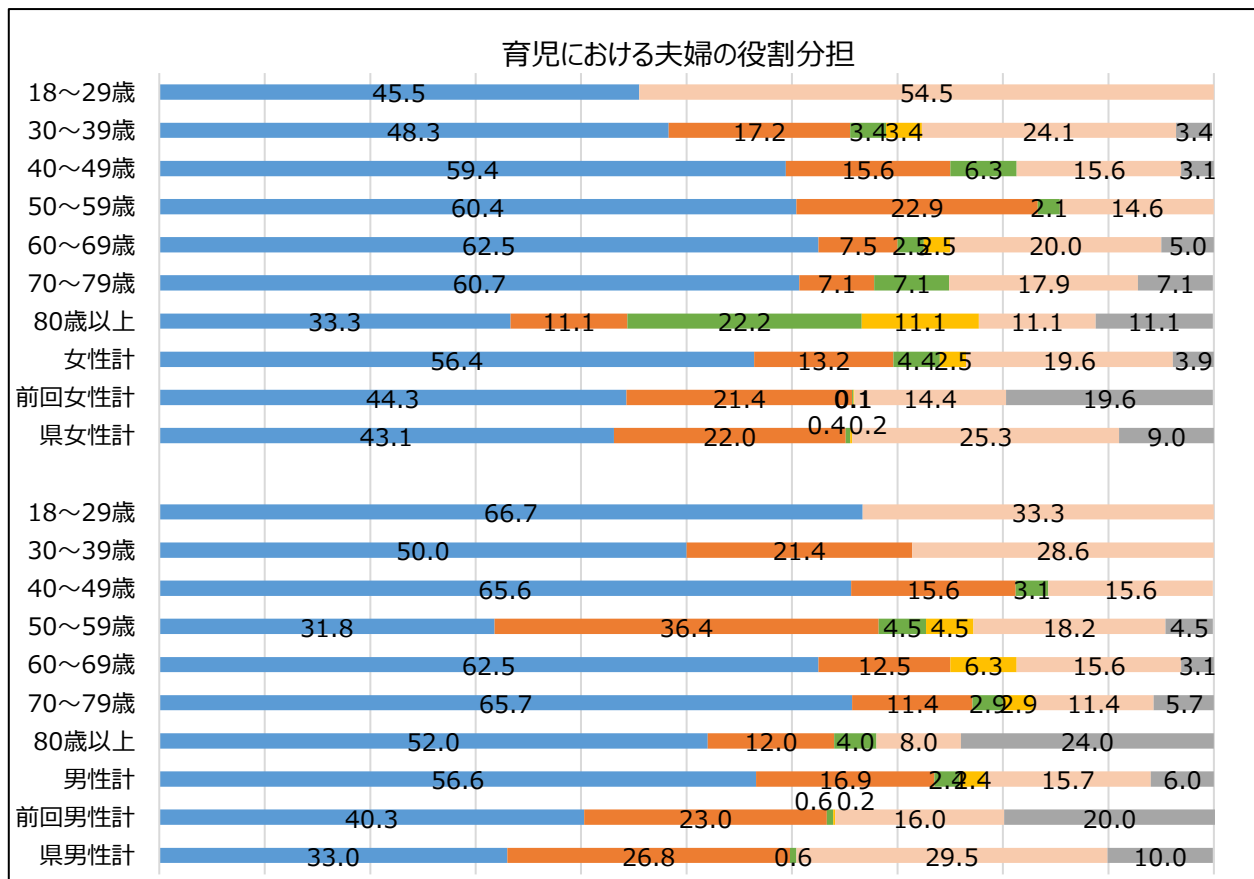


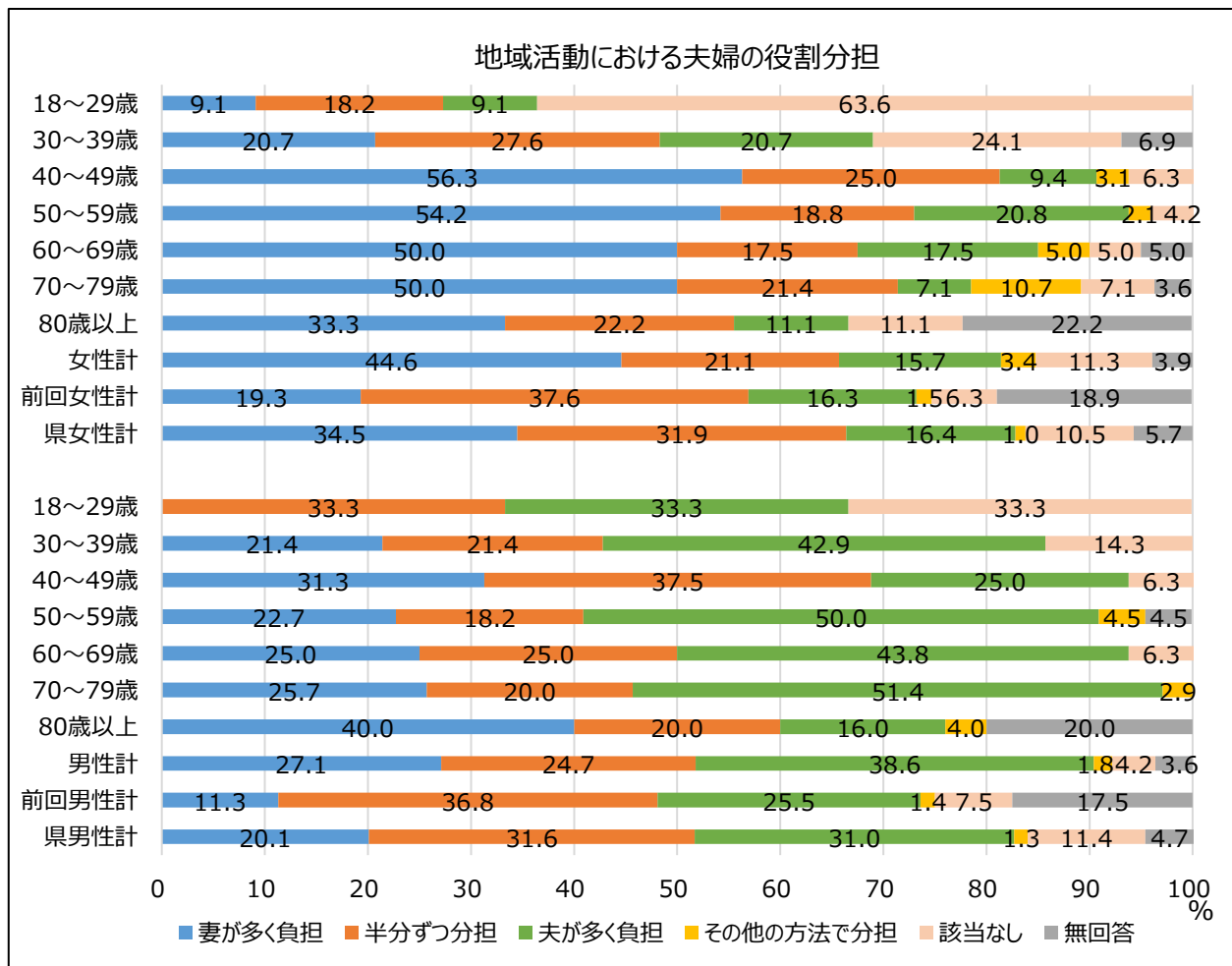
4 家庭生活・地域活動について

(1) 家事、育児、介護・看護、地域活動における夫婦の役割分担

- ・ 「家事」、「育児」、「介護・看護」については、結婚（事実婚を含む。）している男女とも「妻が多く分担」と回答した割合が高く、男女で分担に対する認識はほぼ同じ。一方、「地域活動」については、「妻が多く分担」と回答した割合は女性が高く、「夫が多く分担」は男性が高いことから、男女間に認識のギャップがある。
- ・ 前回の調査と比較すると、男女とも全ての項目で「妻が多く分担」と回答した割合が上昇し、女性は「半分ずつ分担」と回答した割合が「家事」以外は低下。特に大きく低下したのは「地域活動」。
- ・ 県と比較すると、「妻が多く分担」と回答した割合が高く、「半分ずつ分担」と回答した割合が低い。
- ・ 「家事」「育児」「介護・看護」について、男女とも「妻が多く分担」と回答した割合がほぼ全ての年代で高く、特に60・70代が高いものの、30代以下は低い傾向にある。
- ・ 「家事」について、「妻が多く分担」と回答した割合が高いのは40・70代女性(約8割)、「半分ずつ分担」と回答した割合が高いのは30代男女と40代男性(約3割)で、40代の男女間で認識のギャップが大きい。
- ・ 「育児」「介護・看護」について「半分ずつ分担」又は「夫が多く分担」と回答した割合が高いのは、(育児や介護・看護の必要な家族等がないため「該当なし」と回答した人の割合を勘案すると)50代男性で実質5割を超えるものの、同年代女性との認識のギャップは大きい。
- ・ 「地域活動」については、40代以上の女性は「妻が多く分担」、50～70代の男性は「夫が多く分担」と回答した割合が高い。

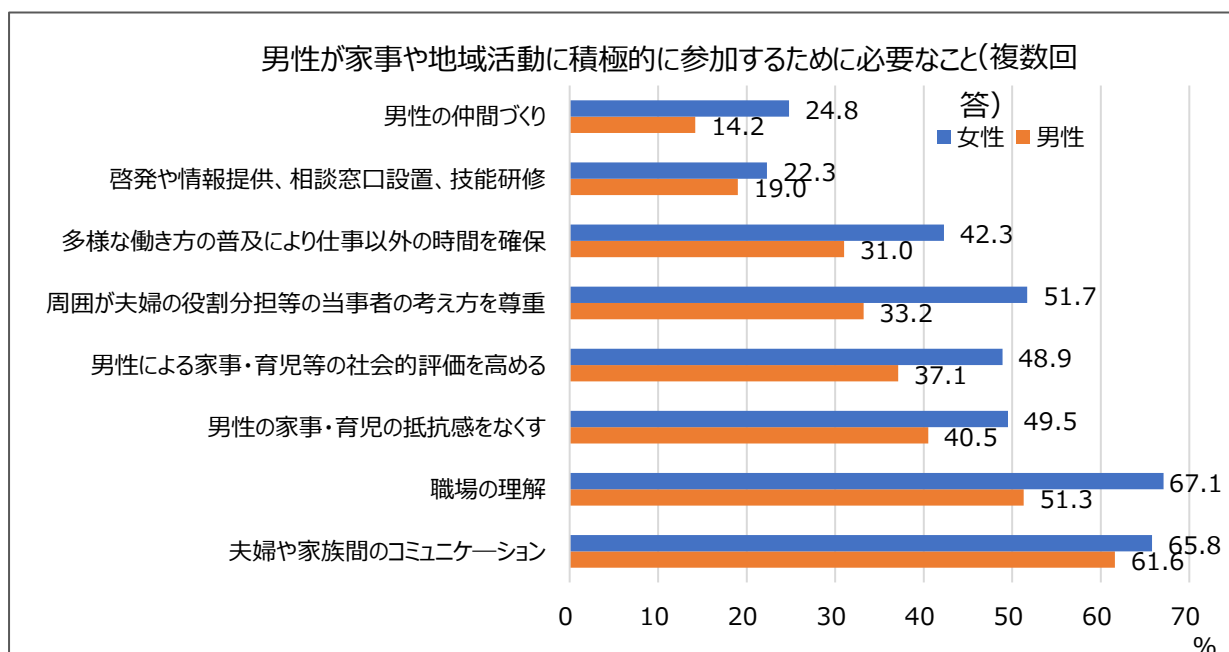






(2) 男性が家庭や地域活動に積極的に参加するために必要なこと

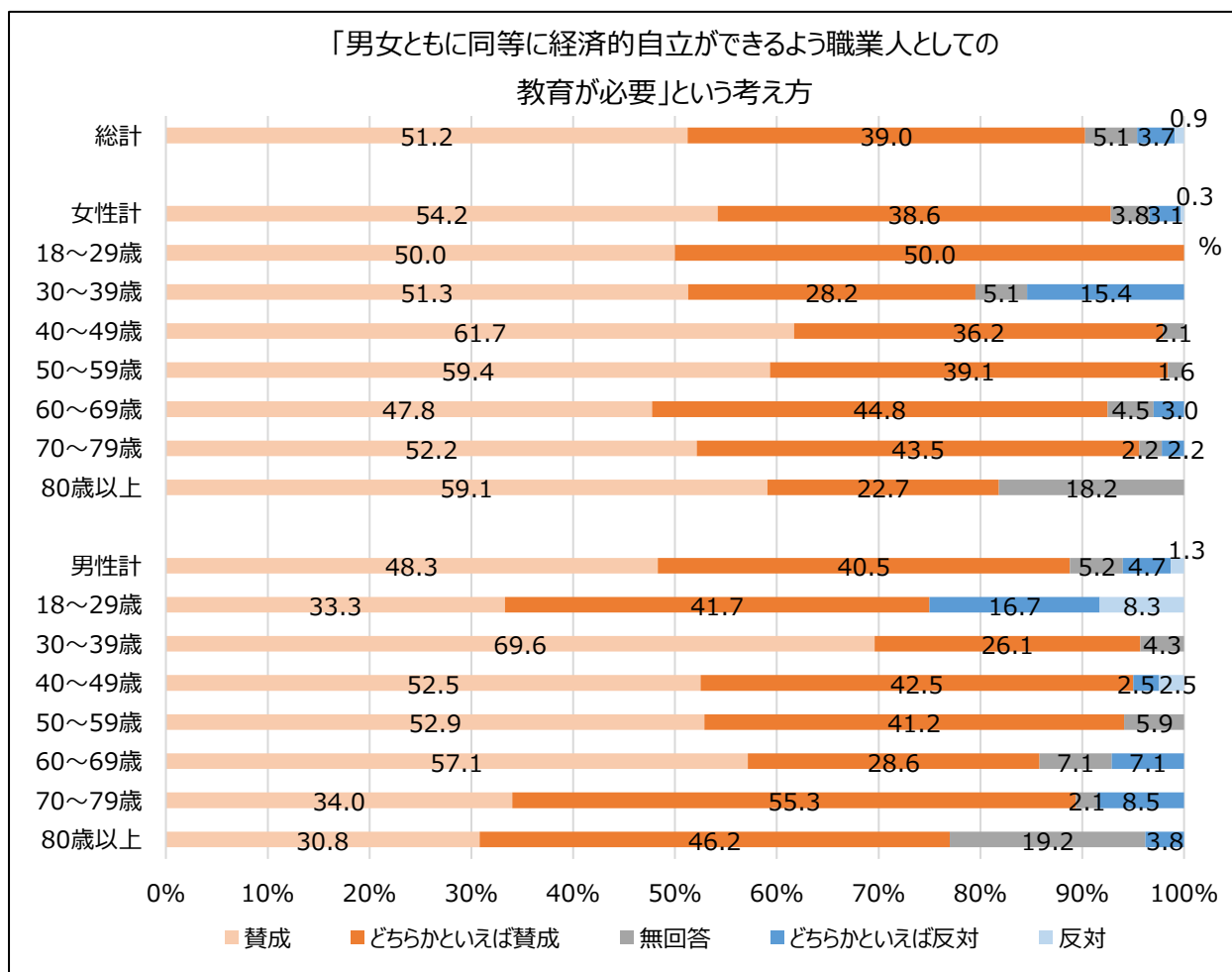
- ・ 男性が家庭生活や地域活動に積極的に参加していくために必要なことについては、女性では『職場の理解』、『夫婦や家族間のコミュニケーション』、『周囲が当事者の考え方を尊重』、男性では『夫婦や家族間のコミュニケーション』、『職場の理解』と回答した割合が高く、5割を超える。
- ・ 全ての項目で男性より女性の回答率が高く、『周囲が当事者の考え方を尊重』と『職場の理解』の男女差が大きい。

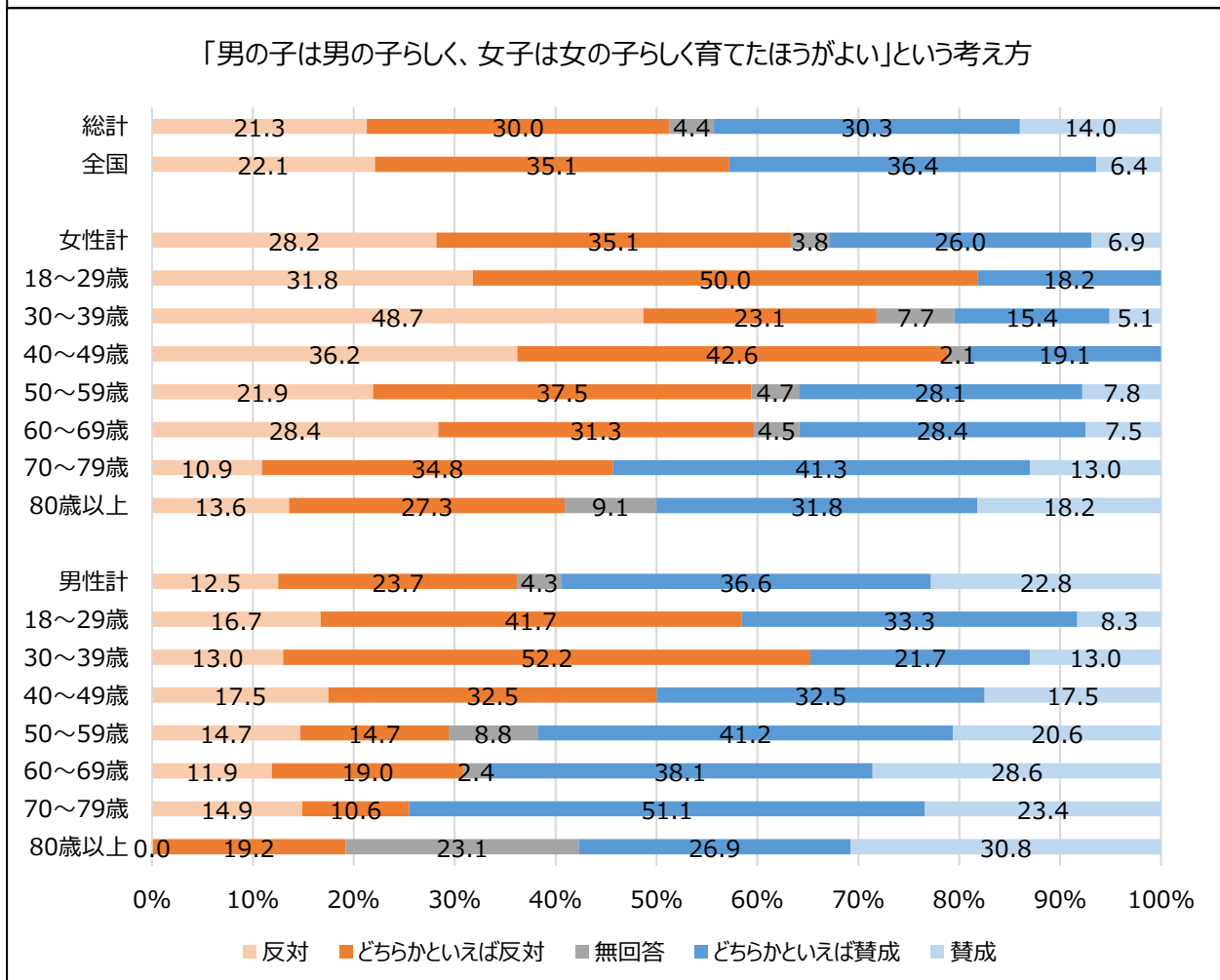
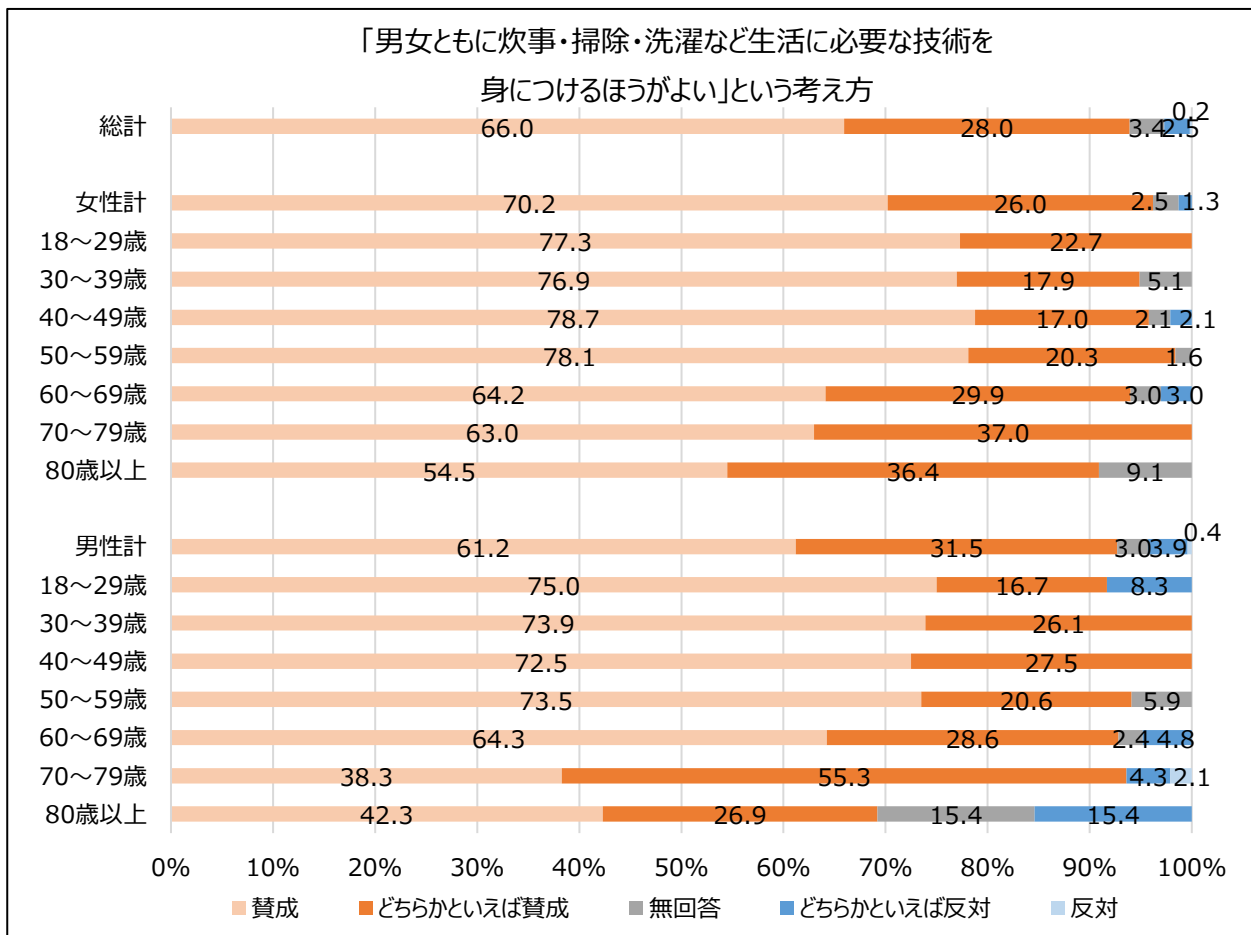


5 子育てに関する考え方について

子育てに関する考え方

- ・ 子育てについて、『男女ともに同等に経済的自立ができるよう職業人としての教育が必要』という考え方と『男女ともに家事など生活に必要な技術を身につけたほうがよい』という考え方に「賛成」又は「どちらかといえば賛成」（以下『賛成計』）と回答した割合は、男女とも約9割で、男性より女性のほうが高く、男性は若い年代ほど高い傾向にある。また、後者のほうが前者より「賛成」と回答した割合が高い。
- ・ 『男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てたほうがよい』という考え方について、『賛成計』の割合は、男性のほうが女性より高く、男女とも年代が高いほど高い傾向にある。70代男性は『賛成計』が7割を超える一方、40代以下の女性は『反対計』が7割を超える。

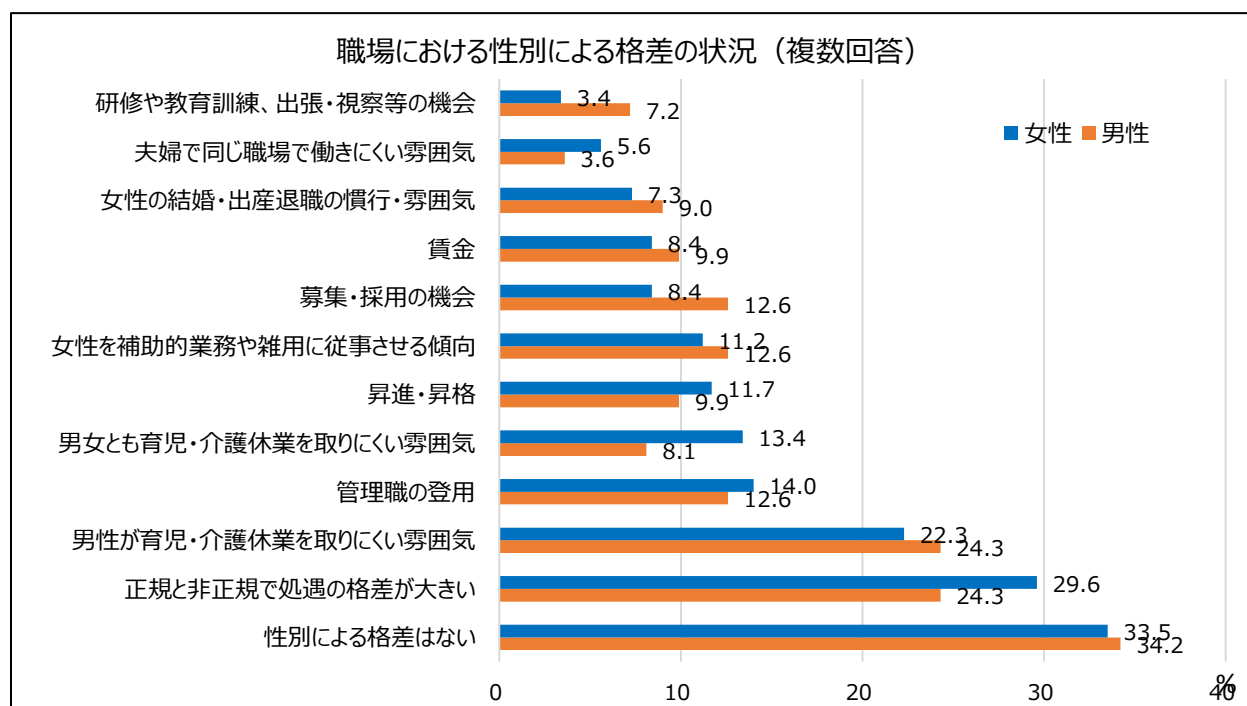




6 職業生活について

職場における性別による格差の状況

- ・ 職場における性別による格差について、被雇用者の男女とも『男女格差なし』と回答した割合が最も高く3割を超え、『正規と非正規による処遇の格差』、『男性が育児・介護休業を取得しづらい』が2割を超える。
- ・ 『正規と非正規による処遇の格差』と回答した割合が高いのは、40代と60代の女性で4割。
- ・ 『男女格差なし』と回答した割合が高いのは、50代男女と30代以下の男性(いずれも45%前後)。
- ・ 50代の男性は『男女格差なし』と回答した割合が高いものの、『男性が育児・介護休業を取得しづらい』、『管理職登用の男女格差』、『正規と非正規による処遇の格差』、『女性に補助・雑用業務』と回答した割合も他の性・年代に比べて高い。
- ・ 県と比較すると、『男性が育児・介護休業を取得しづらい』と回答した割合は、女性で13.6ポイント、男性で8.3ポイント高い一方、『賃金』では女性で4.8ポイント、男性で7.7ポイント低い。(グラフ省略)



職場における性別による格差の状況（複数回答）

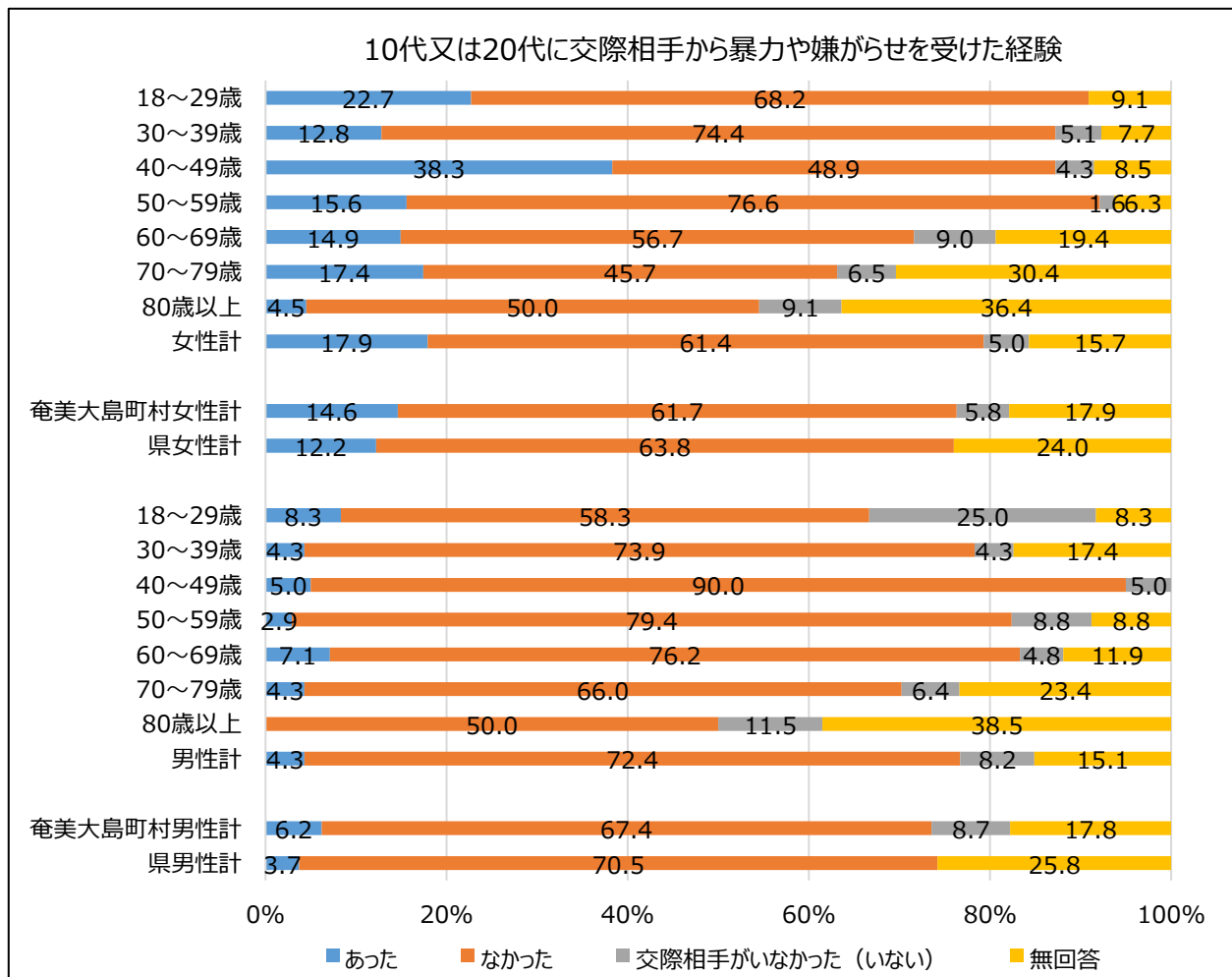
単位：％

	正規と非正規で処遇の格差が大きい	男性が育児・介護休業を取りにくい雰囲気	管理職の登用	女性を補助的業務や雑用に従事させる傾向	男女とも育児・介護休業を取りにくい雰囲気	昇進・昇格	募集・採用の機会	賃金	女性の結婚・出産退職の慣行・雰囲気	夫婦で同じ職場で働きにくい雰囲気	研修や教育訓練、出張・視察等の機会	性別による格差はない
総計	27.7	23.3	13.4	11.6	11.3	11.0	9.9	8.9	7.9	4.8	4.8	33.9
女性計	29.6	22.3	14.0	11.2	13.4	11.7	8.4	8.4	7.3	5.6	3.4	33.5
18～29歳	13.3	40.0	13.3	20.0	20.0	13.3	6.7	0.0	26.7	0.0	6.7	20.0
30～39歳	19.4	29.0	19.4	19.4	16.1	9.7	12.9	6.5	6.5	12.9	3.2	29.0
40～49歳	40.5	21.6	10.8	13.5	2.7	13.5	8.1	10.8	2.7	8.1	2.7	35.1
50～59歳	25.5	23.5	15.7	5.9	13.7	11.8	7.8	7.8	5.9	3.9	2.0	45.1
60～69歳	40.0	5.7	8.6	5.7	17.1	11.4	8.6	14.3	5.7	2.9	5.7	31.4
男性計	24.3	24.3	12.6	12.6	8.1	9.9	12.6	9.9	9.0	3.6	7.2	34.2
18～29歳	11.1	11.1	11.1	0.0	11.1	0.0	22.2	0.0	0.0	11.1	0.0	44.4
30～39歳	15.8	15.8	5.3	10.5	0.0	5.3	5.3	10.5	10.5	10.5	5.3	47.4
40～49歳	20.6	29.4	20.6	14.7	8.8	14.7	14.7	8.8	11.8	2.9	11.8	26.5
50～59歳	30.0	40.0	25.0	20.0	20.0	15.0	15.0	15.0	10.0	0.0	5.0	45.0
60～69歳	36.8	21.1	0.0	10.5	5.3	5.3	15.8	10.5	0.0	0.0	10.5	21.1

7 ジェンダーに起因する暴力について

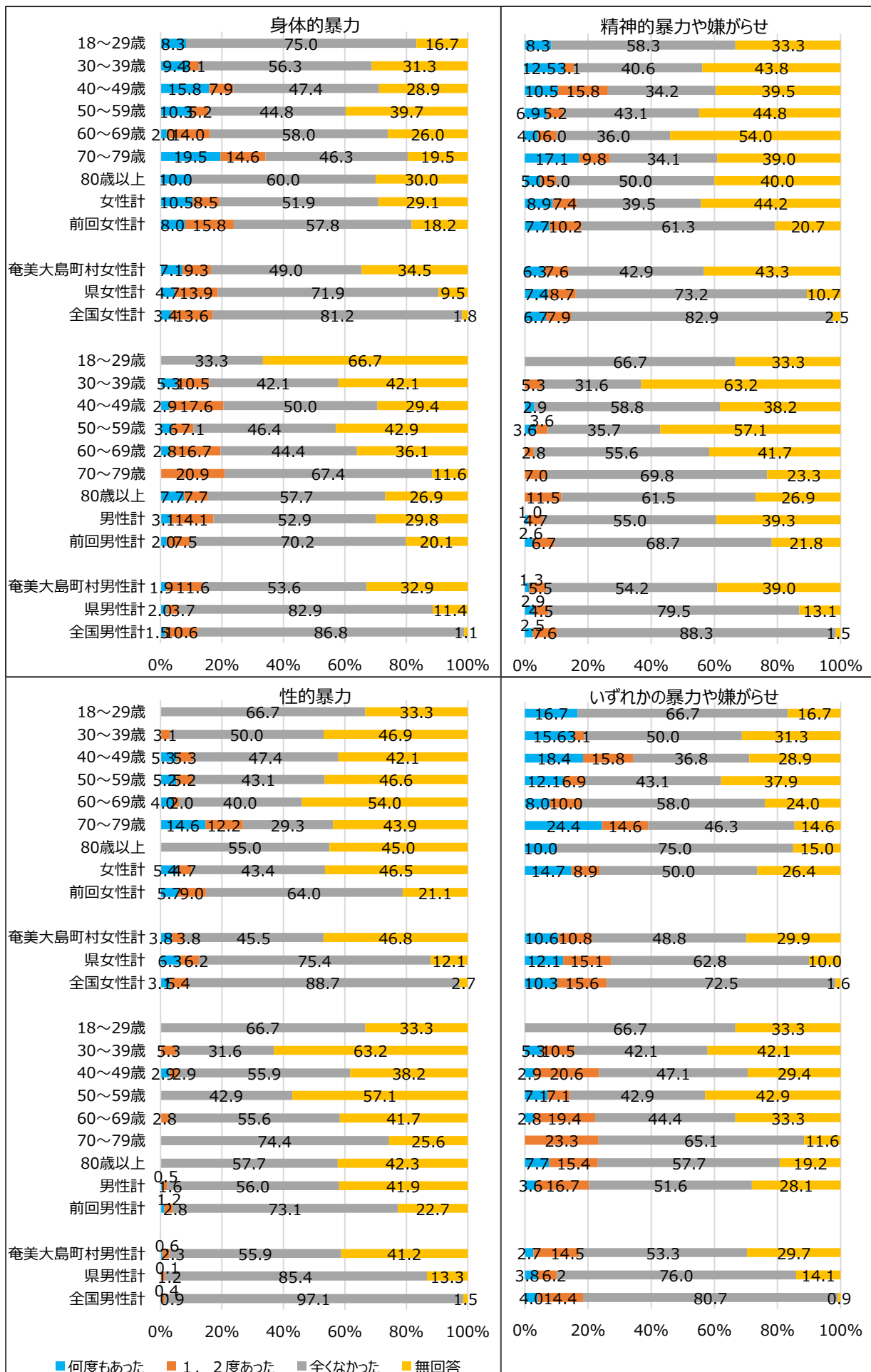
(1) 交際相手や元交際相手から暴力を受けた経験

- ・ 10代又は20代に交際相手や元交際相手から身体的・精神的・性的暴力のいずれかの暴力を受けた経験があると回答した割合は、女性は17.9%、男性は4.3%。
- ・ いずれかの暴力を受けた経験があると回答した割合が最も高いのは、40代の女性で約4割。
- ・ 男女とも50代以上は年代が高くなるほど「無回答」の割合が高い。
- ・ 県と比較すると、いずれかの暴力を受けた経験があると回答した割合は男女とも高くなっている。



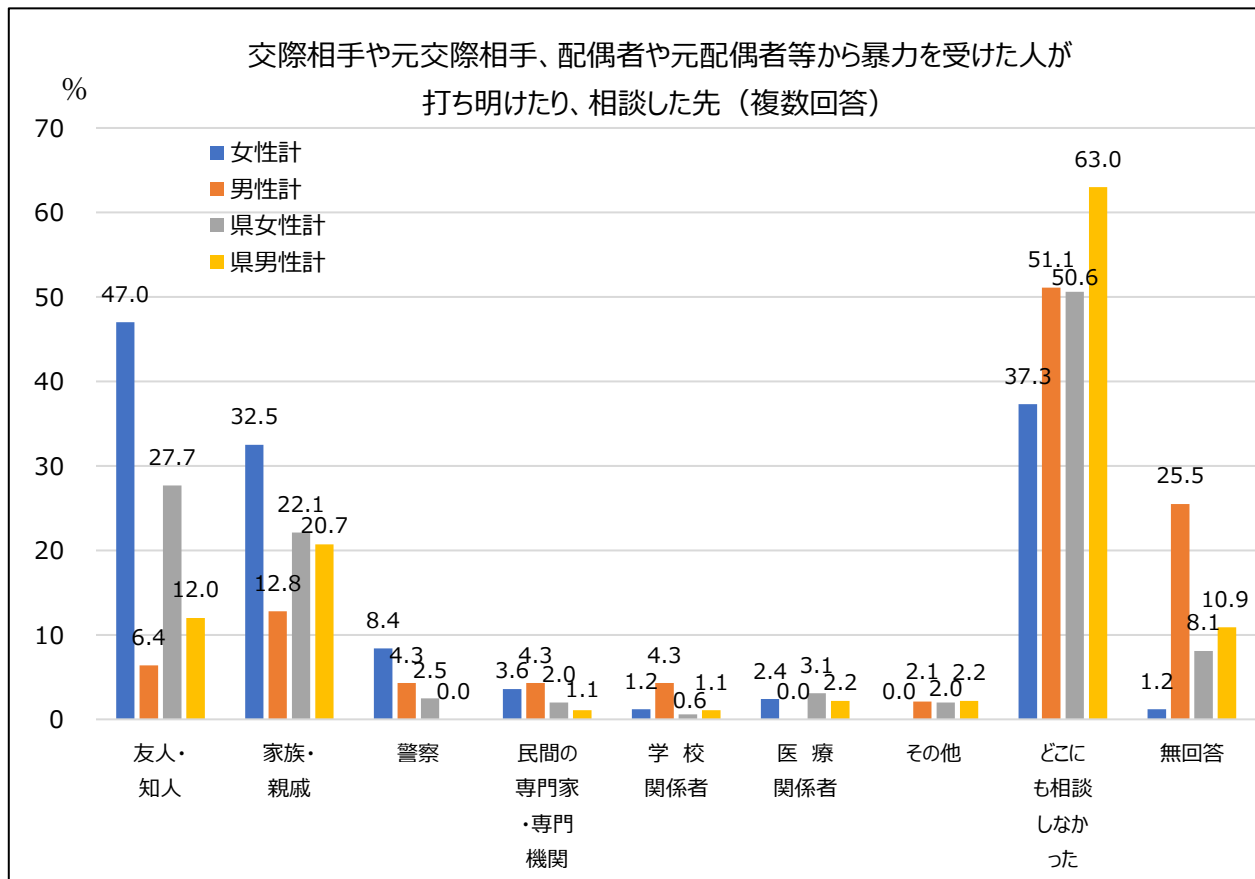
(2) 配偶者や元配偶者からの暴力を受けた経験

- ・ 結婚経験者（事実婚を含む。）は男女とも、『身体的暴力』、『精神的暴力』、『性的暴力』の順に配偶者や元配偶者から暴力を受けた経験が「何度もあった」及び「1、2度あった」と回答した割合が高い。それらのいずれかの暴力を受けた経験が「何度もあった」と回答した割合は、女性で14.7%、男性で3.6%。
- ・ 「無回答」の割合が高く、特に『精神的暴力』と『性的暴力』で、年代では30～60代の男女で高い。実際に暴力を受けた経験のある人の割合は、調査結果より高い可能性がある。
- ・ 身体的暴力では、「何度もあった」と回答した割合が高いのは70代と40代の女性。
- ・ 精神的暴力では、「何度もあった」と回答した割合が高いのは70、30、40代の女性。
- ・ 性的暴力では、「何度もあった」と回答した割合が高いのは70代女性。
- ・ いずれかの暴力を受けた経験が「何度もあった」と回答した割合が高いのは70代女性(24.4%)、40代女性(18.4%)。「1、2度あった」を合わせると、39.0%と34.2%。男性で「何度もあった」と回答した人はほとんどない。



(3) 暴力を受けたときの相談先

- ・ 恋人や元恋人、配偶者や元配偶者から暴力や嫌がらせを受けた経験があると回答した人の相談先については、「どこ（だれ）にも相談しなかった（できなかった）」と回答した割合が女性 37.3%、男性 51.1%。「家族や親戚」が女性 32.5%、男性 12.8%。「友人、知人」が女性 47.0%（40 代以下は 7 割超）、男性 6.4%。
- ・ 役場に相談した人はいなかった。

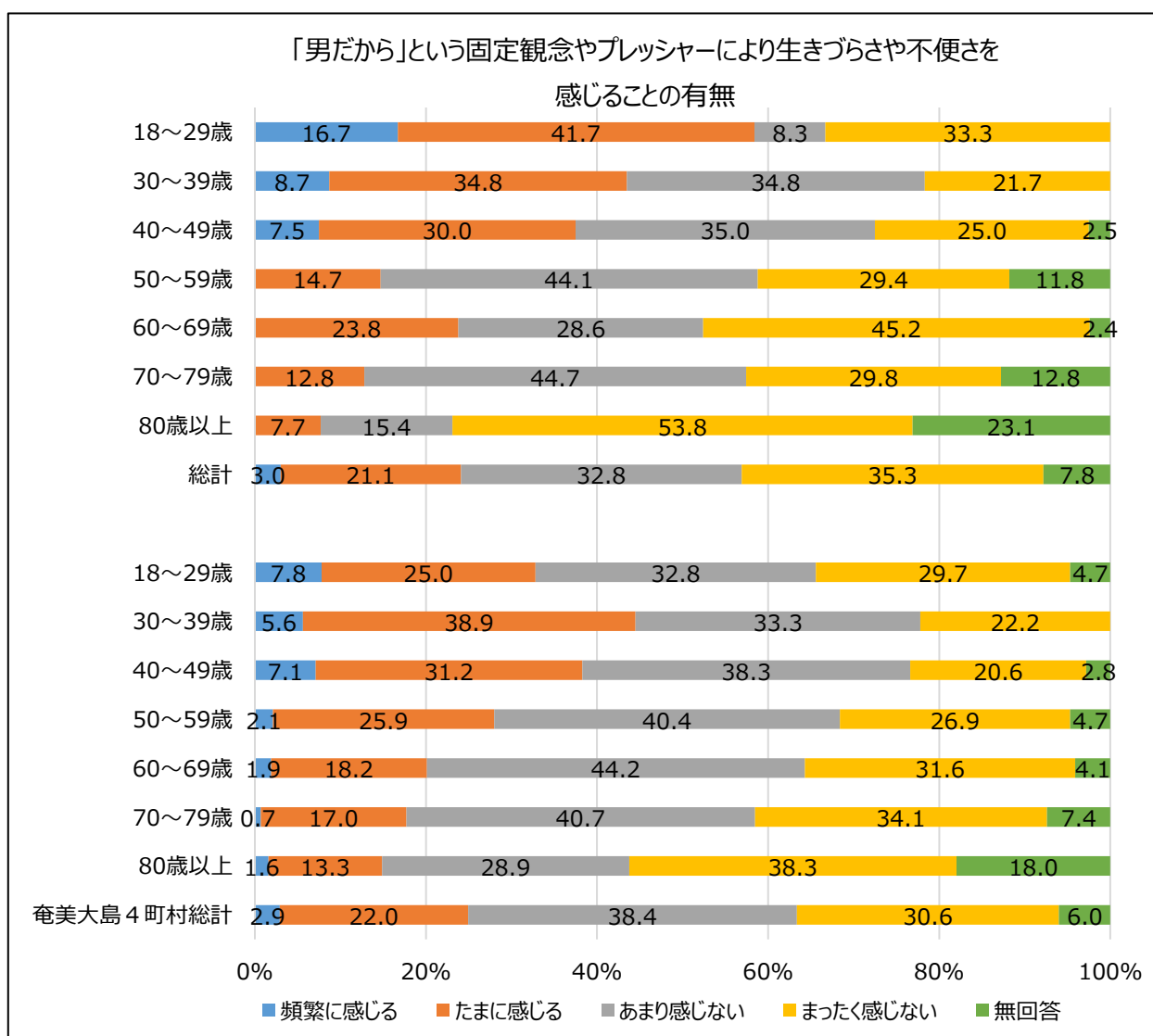


※本町及び県の回答率 2%未満の「法務局・人権擁護委員」「配偶者暴力相談支援センター等」「市町村等その他公的機関」はグラフから省略

8 男性の生きづらさや不便さについて

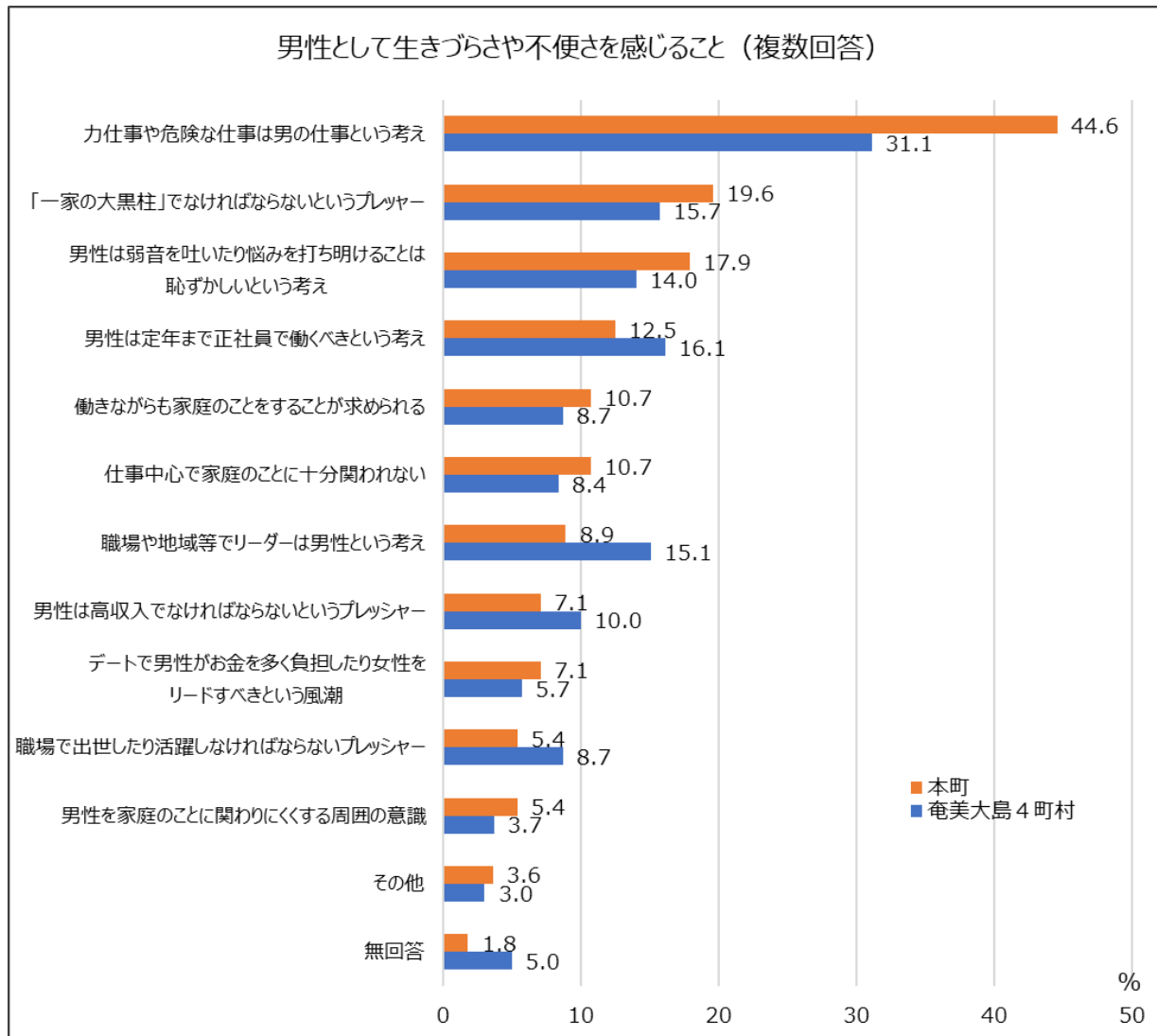
(1) 男性としての生きづらさや不便さの有無

- ・ 職場や学校、家庭などの場で、「男だから」という固定観念やプレッシャーにより生きづらさや不便さ（以下「男性としての生きづらさや不便さ」）について、「頻繁に感じる」又は「たまに感じる」（以下『感じる』）と回答した割合は4分の1。
- ・ 若い年代ほど『感じる』と回答した割合が高い傾向。
- ・ 奄美大島4町村と比較すると、『感じる』割合は30代以下は上回り、50代以上は下回っている。
- ・ 結婚の状況別では「離別・死別」、職業別では「非正規雇用者」が『感じる』割合が高い。（グラフ省略）



(2) 男性として生きづらさや不便さを感じること

- ・ 「男性としての生きづらさや不便さ」を『感じる』と回答した男性が、そう感じることで回答（3つまで）した割合が高いのは『力仕事や危険な仕事』、『一家の大黒柱』、『弱音を吐いたり悩みを打ち明けられない』。
- ・ 奄美大島4町村と比較すると、『力仕事や危険な仕事』と回答した割合が高い。
- ・ 結婚の状況別では、「結婚している(事実婚を含む)」男性は『一家の大黒柱』、「離別・死別」した男性は『弱音を吐いたり悩みを打ち明けられない』と回答した割合が高い。
- ・ 夫婦の就労状況別では、「自分のみ仕事がある」男性は、『一家の大黒柱』と回答した割合(80.0%)が高い。
- ・ 職業別では、「正規雇用者」では『弱音を吐いたり悩みを打ち明けられない』や『職場や地域でのリーダー』と回答した割合が高い。(後半3項目はグラフ省略)



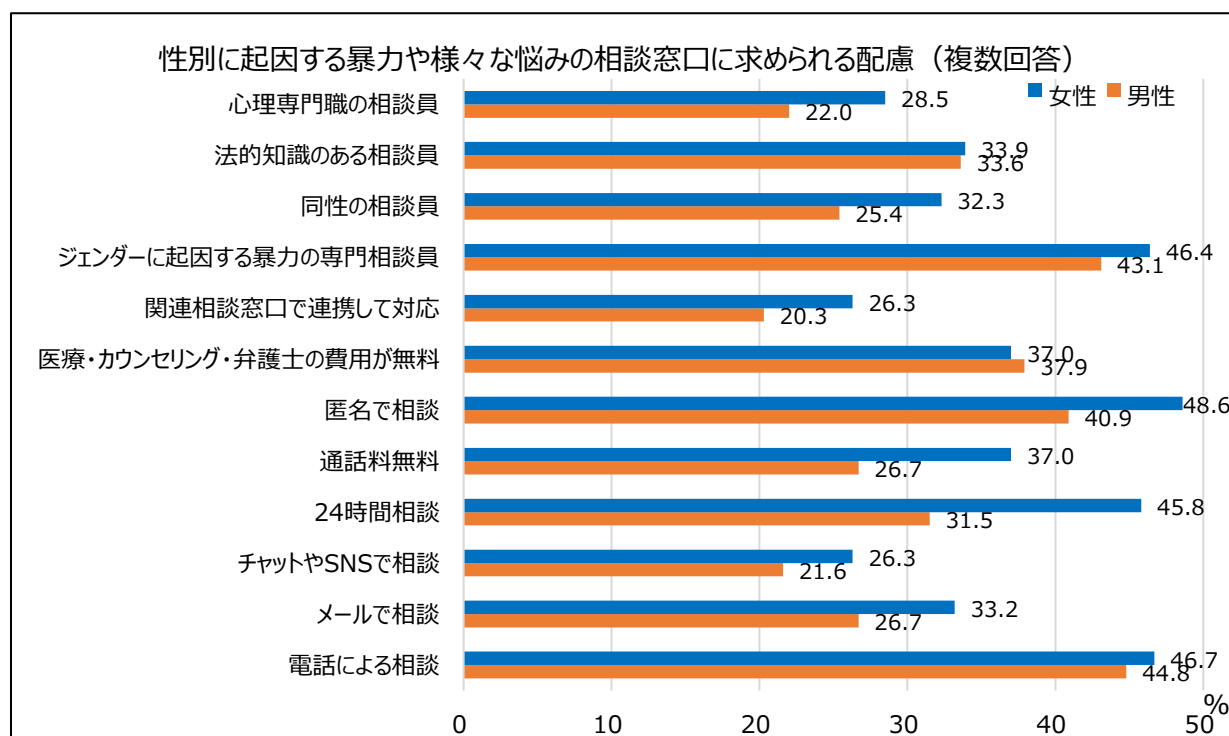
※男性として生きづらさや不便さを感じたエピソード

- ・ 管理職で休みを取得しにくい。力仕事、外仕事をして当たり前に思われがち。集落の清掃やイベントに参加できないと後日いろいろ言われる。(40代男性)
- ・ 子どものいじめ、身近な女性の死、優しい先生の死、家族けんか(40代男性)
- ・ 男性は率先して物事に取り組むべきという雰囲気(20代男性)

9 生活上の困難について

(1) 相談窓口に必要な配慮

- ・ 性別に起因する暴力や様々な悩みなどに関する相談窓口などにおける必要な配慮については、『電話による相談可能』、『匿名で相談可能』、『ジェンダーに起因する暴力の専門相談員』と回答した割合が4割を超える。
- ・ ほとんどの項目について、女性の方が男性より回答した割合が高い。
- ・ 女性では、『匿名で相談可能』、『電話による相談可能』、『ジェンダーに起因する暴力の専門相談員』、『24時間相談』の順に回答した割合が高く4割を超える。
- ・ 男性では、『電話による相談可能』、『ジェンダーに起因する暴力の専門相談員』、『匿名で相談可能』が4割超。
- ・ 『24時間相談』と『通話料が無料』は、女性のほうが男性より10ポイント以上高い。
- ・ 年代が低いほど、『チャットやSNSで相談可能』、『メールで相談可能』と回答した割合が高い。
- ・ 『ジェンダーに起因する暴力の専門相談員』と回答した割合は50・60代、『電話による相談可能』は50・70代、『匿名で相談可能』は40・50代で5割を超える。



性別に起因する暴力や様々な悩みなどに関する相談窓口等に求める配慮（複数回答）

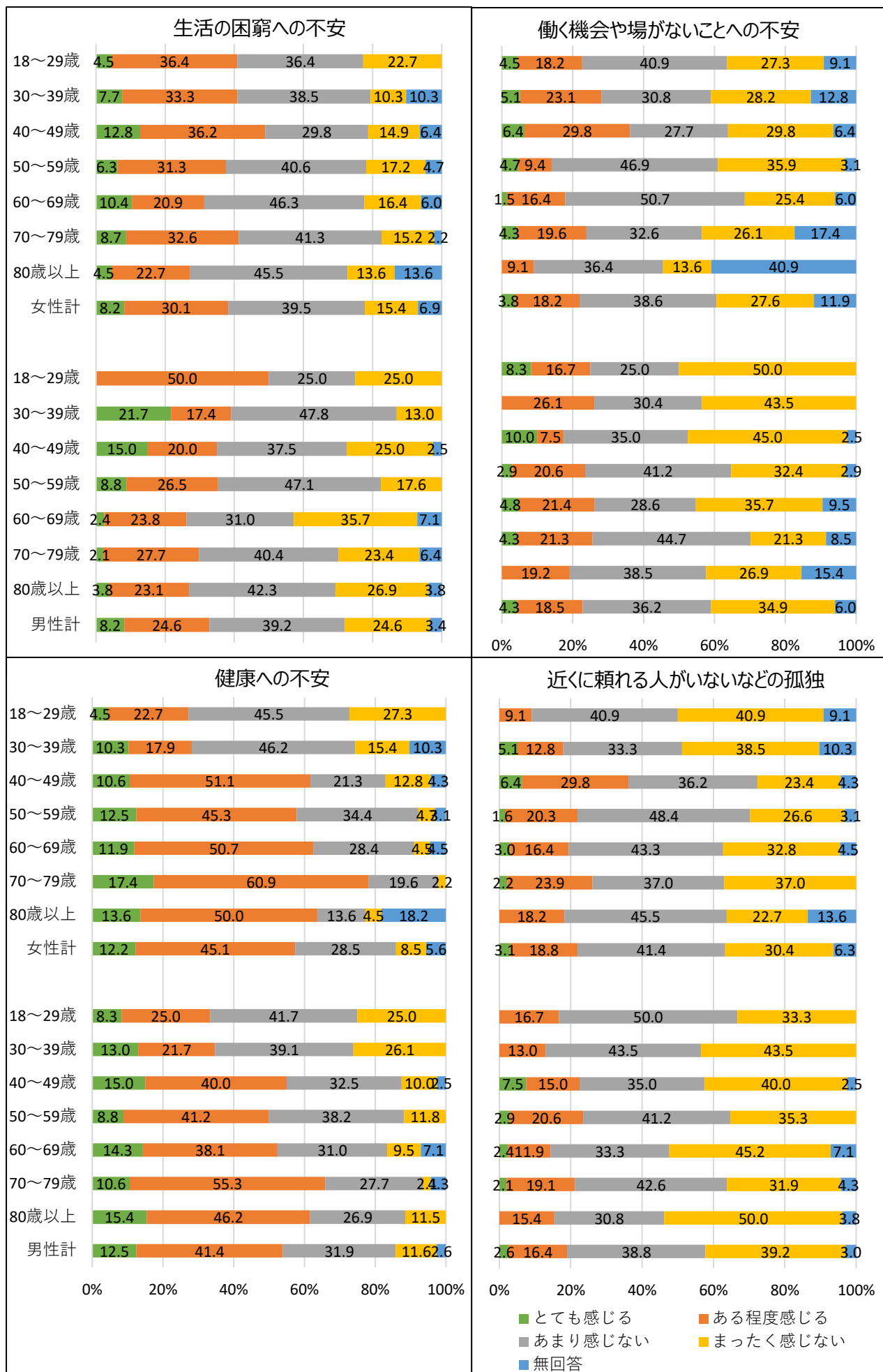
単位：%

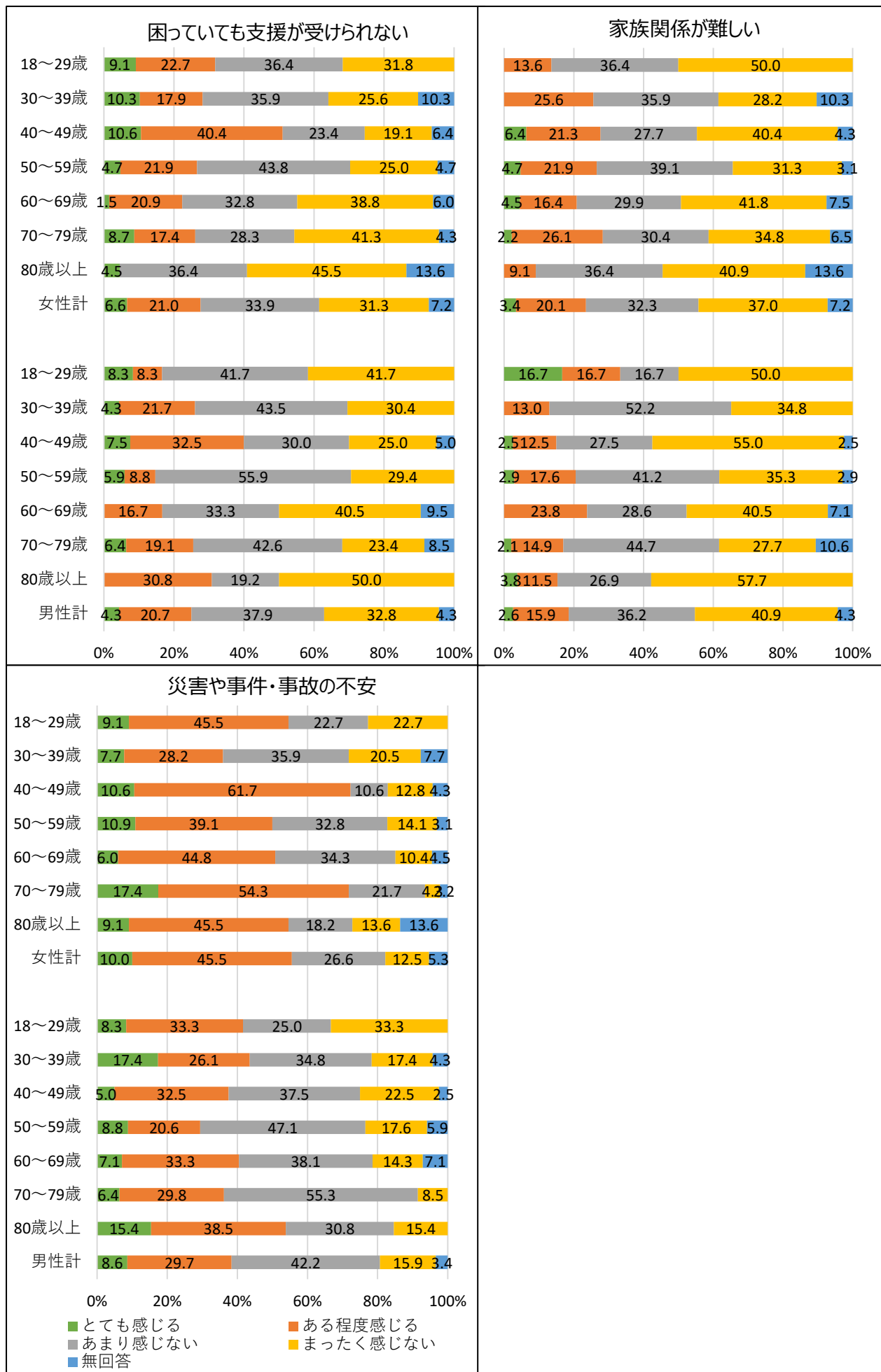
	電話による相談	メールで相談	チャットやSNSで相談	24時間相談	通話料無料	匿名で相談	医療・カウンセリング・弁護士が無料	関連相談窓口で連携して対応	ジェンダーに起因する暴力の専門相談員	同性の相談員	法的知識のある相談員	心理専門職の相談員
総計	45.0	29.8	23.9	39.0	32.1	44.7	36.5	23.2	44.3	28.9	33.2	25.4
18～29歳	47.1	50.0	61.8	52.9	47.1	47.1	35.3	17.6	44.1	35.3	35.3	29.4
30～39歳	28.6	31.7	44.4	41.3	44.4	49.2	41.3	28.6	39.7	34.9	38.1	28.6
40～49歳	44.3	39.8	30.7	45.5	34.1	56.8	45.5	28.4	47.7	30.7	43.2	33.0
50～59歳	54.1	39.8	25.5	46.9	35.7	50.0	46.9	27.6	51.0	33.7	32.7	27.6
60～69歳	43.6	29.1	17.3	40.9	33.6	43.6	40.0	22.7	52.7	30.9	36.4	30.0
70～79歳	51.1	13.8	10.6	27.7	19.1	37.2	23.4	19.1	41.5	22.3	25.5	18.1
80歳以上	40.0	10.0	4.0	22.0	20.0	24.0	18.0	10.0	20.0	12.0	16.0	6.0

(2) 生活上の不安や困難

- ・ 生活の場面で不安や困難を「とても感じる」と回答した割合は、『健康』が最も高く、次いで『災害や事件・事故』、『生活の困窮』で10%前後。「ある程度感じる」を合わせる（以下「感じる」）と、『健康』で5割を超える。
- ・ 不安や困難を「感じる」と回答した割合は、『働く場や機会』以外で男性より女性のほうが高く、特に『災害や事件・事故』で男女の差が大きい。
- ・ **生活の困窮の不安**について、「とても感じる」と回答した割合は男女とも約8%で、「感じる」は女性38.3%、男性32.8%。30・40代男性と40代女性が「とても感じる」と回答した割合が高く、30・40代の女性は「感じる」が4割以上。「未婚」の女性と「離別・死別」の男性が「感じる」と回答した割合が高い傾向にある。
- ・ **働く場や機会がない・十分に働けていないことへの不安・困難**について、男女とも「とても感じる」と回答した割合は約4%、「感じる」は約22%。「感じる」と回答した割合は、40代女性(36.2%)、「単身世帯」の男性(34.9%)、及び「離別・死別」の男性(42.3%)が高い。
- ・ **健康への不安**について、男女とも「とても感じる」と回答した割合は1割、「感じる」は5割を超える。年代が高いほど不安を感じる割合が高い傾向にあり、70代女性で「感じる」と回答したのは約8割。「とても感じる」は「未婚」の女性、「感じる」は「離別・死別」の女性で回答した割合が高い。
- ・ **孤独への不安**について、「とても感じる」と回答した割合は男女とも3%で、「感じる」は2割前後。「感じる」と回答した割合は、40代女性、「単身世帯」の男女、「未婚」の女性、「離別・死別」の男性が3割超。
- ・ **困っていても、支援が受けられないことへの不安や困難**について、「とても感じる」と回答した割合は、女性は6.6%、男性は4.3%で、「感じる」は、女性27.6%、男性25.0%。「とても感じる」と回答した割合は40代女性が最も高く、「感じる」は5割を超える。「感じる」と回答した人の割合は、40代男性と「未婚」の女性も高い(40.0%、36.4%)。
- ・ **家族との関係の難しさ**を「とても感じる」と回答した割合は、女性3.4%、男性2.6%、「感じる」は、女性23.5%、男性18.5%。「感じる」と回答した割合は、29歳以下の男性と70・40代の女性が3割前後で、「離別・死別」の男性(38.4%)、「単身世帯」の男女(女性27.8%、男性27.9%)、及び「未婚」の女性(27.3%)も高い。
- ・ **災害や事件・事故の不安**を「とても感じる」と回答した割合は、女性10.0%、男性8.6%、「感じる」は、女性55.5%、男性38.3%。「とても感じる」と回答した割合は、70代女性と30代男性が高く、「感じる」は女性40・70代が7割、男性は80代が5割を超える。「単身世帯」の女性(62.5%)と「未婚」の男性(47.1%)も「感じる」の割合は高い。

※結婚や世帯の状況別のグラフは省略

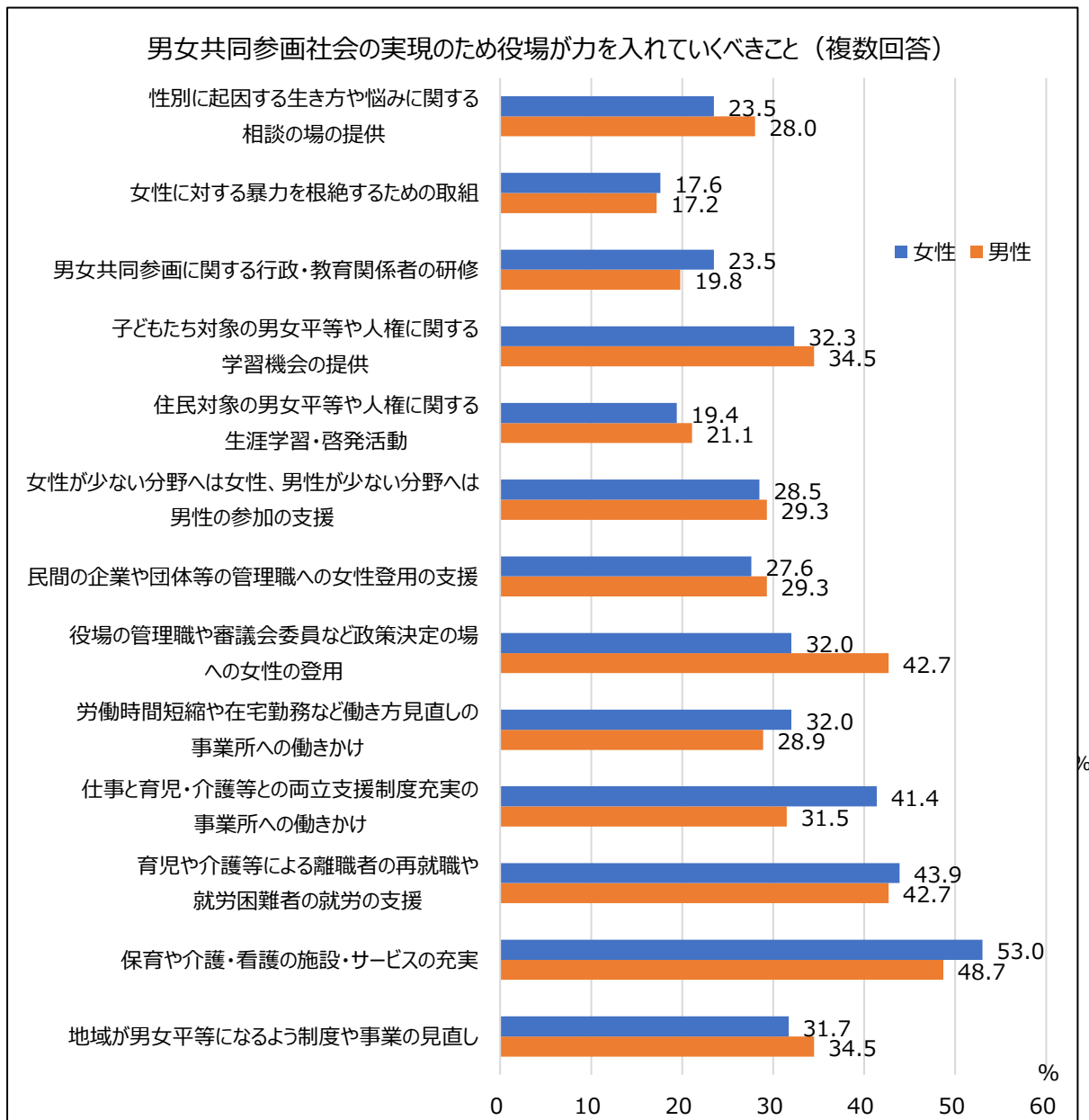




10 男女共同参画施策について

男女共同参画社会を実現するために役場が力を入れていくべきこと

- ・ 男女共同参画社会の実現のために役場が力を入れるべきことについては、『保育・介護サービスの充実』と回答した割合が最も高く5割を超える。次いで『再就職や就労支援』、『仕事と育児・介護等の両立支援制度の事業所への働きかけ』、『政策決定の場への女性登用』。
- ・ 男女とも『保育・介護サービスの充実』、『再就職や就労支援』と回答した割合が高く、他に、女性は『仕事と育児・介護等の両立支援制度の事業所への働きかけ』、男性は『政策決定の場への女性登用』も4割超。
- ・ 女性は、29歳以下で『働き方の見直しの事業所への働きかけ』、『仕事と育児・介護等の両立支援制度の事業所への働きかけ』及び『男女のそれぞれ少ない分野への参加支援』、30代と60代以上は『保育・介護サービスの充実』、50代は『再就職や就労支援』が5割を超えている。
- ・ 男性は、60代で『再就職や就労支援』、29歳以下で『再就職や就労支援』、30代で『働き方の見直しの事業所への働きかけ』、40・50代及び70代以上で『保育・介護サービスの充実』、70代で『政策決定の場への女性登用』が5割を超えている。



男女共同参画社会を実現するために役場が力を入れていくべきこと（複数回答）

単位：％

	地域が男女平等になるよう制度や事業の見直し	保育や介護・看護の施設・サービスの充実	育児や介護等による離職者の再就職や就労困難者の就労の支援	仕事と育児・介護等との両立支援制度充実の事業所への働きかけ	労働時間短縮や在宅勤務など働き方見直しの事業所への働きかけ	役場の管理職や審議会委員など政策決定の場への女性の登用	民間の企業や団体等の管理職への女性登用の支援	女性が少ない分野へは女性、男性が少ない分野へは男性の参加の支援	住民対象の男女平等や人権に関する生涯学習・啓発活動	子どもたち対象の男女平等や人権に関する学習機会の提供	男女共同参画に関する行政・教育関係者の研修	女性に対する暴力を根絶するための取組	性別に起因する生き方や悩みに関する相談の場の提供
総計	32.1	50.4	42.6	36.7	30.1	36.0	27.8	28.4	19.7	32.4	21.6	17.0	25.0
女性計	31.7	53.0	43.9	41.4	32.0	32.0	27.6	28.5	19.4	32.3	23.5	17.6	23.5
18～29歳	36.4	45.5	40.9	54.4	63.6	18.2	27.3	54.5	9.1	40.9	27.3	36.4	36.4
30～39歳	28.2	53.8	53.8	46.2	48.7	25.6	28.2	28.2	12.8	28.2	10.3	12.8	23.1
40～49歳	44.7	46.8	34.0	38.3	27.7	29.8	25.5	29.8	27.7	27.7	25.5	21.3	25.5
50～59歳	20.3	48.4	50.0	43.8	34.4	35.9	28.1	18.8	15.6	37.5	21.9	20.3	21.9
60～69歳	34.3	56.7	44.8	41.8	26.9	40.3	29.9	32.8	26.9	31.3	22.4	14.9	19.4
70～79歳	34.8	65.2	50.0	37.0	17.4	32.6	30.4	23.9	15.2	30.4	30.4	13.0	19.6
80歳以上	22.7	54.5	22.7	36.4	13.6	27.3	13.6	27.3	13.6	18.2	22.7	4.5	22.7
男性計	34.5	48.7	42.7	31.5	28.9	42.7	29.3	29.3	21.1	34.5	19.8	17.2	28.0
18～29歳	41.7	41.7	50.0	25.0	33.3	25.0	8.3	25.0	16.7	16.7	8.3	33.3	33.3
30～39歳	26.1	30.4	34.8	34.8	52.2	30.4	30.4	26.1	17.4	34.8	26.1	26.1	26.1
40～49歳	32.5	52.5	37.5	30.0	37.5	40.0	30.0	37.5	17.5	42.5	15.0	20.0	35.0
50～59歳	44.1	55.9	44.1	41.2	29.4	44.1	29.4	26.5	17.6	38.2	14.7	20.6	41.2
60～69歳	40.5	42.9	59.5	31.0	28.6	42.9	33.3	31.0	23.8	40.5	31.0	16.7	26.2
70～79歳	29.8	51.1	42.6	34.0	17.0	53.2	31.9	29.8	19.1	31.9	17.0	8.5	21.3
80歳以上	26.9	57.7	38.5	26.9	23.1	46.2	26.9	26.9	38.5	26.9	26.9	15.4	15.4

11 男女共同参画社会の実現に向けての意見・要望

男女共同参画社会を実現するために今後役場が力を入れていくべきことについて寄せられた意見等（63件）のうち主な内容

■意識・風潮（18件）

- ・ 奄美は男尊女卑の精神が根強い。早急に年配の方や若者に男女平等の周知や制度が必要。（30代女性）
- ・ LGBTなどを含めて性への偏見を見直していく必要がある。（30代女性）
- ・ 地域における男尊女卑の風土を無くす。（40代女性）
- ・ 地域社会への参加は個人の考え方を尊重することが大切だが、人任性的な風潮は女性の方が強い。（40代男性）
- ・ その人の能力や良さを認め合うことやその姿を大人（親）が子供に見せることが大事。家事は「女性がするもの」ではなく、性別問わず「みんなで分担するもの」という意識をみんながもてるとよい。（50代女性）
- ・ 柔軟性のある方は、相手の立場や意見を理解し、尊重することができ、これまでのやり方に固執することなく問題を解決したり、様々な物事の実現に近づける。固定観念にとらわれ、柔軟性の欠ける人の意識改革が必要。（60代女性）
- ・ リーダー等一部の人の意見だけを取り入れるのではなく、みんなで話し合っ、良い意見はどんどん取り入れていく風潮が地域社会にあれば、男女共同参画が進んでいくのではない。（60代女性）
- ・ 女性が積極的に意見して、もっと自分から前に出るべきで、周りが協力して推さないと前に出られないのは良くない。男女とも大きな心を持って前向きに挑戦していくと良いと思う。（70代男性）
- ・ 女性の「男の人にさせた方がいい」、「女だから」という考えや意識は改革が必要。（80歳以上男性）
- ・ 「男性だから」「女性だから」という考え方がなくなり、一人ひとりが自分の人生を有意義に過ごせたらと思う。たくさんの人の意見で少しずつでも社会が変わることを望んでいる。（年代不明女性）

■子育て・介護（4件）

- ・ 保育の施設・サービスは今でも十分有り難いが、延長料金支払制度等で開所が30分長くなるといい。（40代女性）
- ・ 収入は減るのに学校給食費や保育料、学童利用料等が上がり、何のために働いているかわからなくなる。収入に見合う料金にしてほしい。（40代女性）
- ・ 介護も子育ても一人では無理で、人の手助けが必要。行政や会社の協力があると助かる。（年代不明女性）
- ・ 子育てだけではなく介護で生きづらい。男女平等に行うべきで、みんなで協力することが必要。（年代不明女性）

■職場・労働（11件）

- ・ 性別、年代に関係なく能力に応じて相応の仕事ができ、賃金の心配をなくす。（20代男性）
- ・ 大島紬の織り工は「女性」という認識があるが、男性がいても良いと思う。（30代女性）
- ・ 人事制度の専門家が町内の中小企業を中心に訪問し、男性の有給育休の制度化を促進。町は制定1年後に助成金を交付することとし、制度の浸透を図る。その取組の良さがわかれば、島なら口コミで拡散するはず。（30代男性）
- ・ 育児期に一番重要なのは働く環境の整備。一人で子どもと関わる時間が長いほど精神的に追い詰められやすい。男女とも残業せず休みも取れて、生活できる収入を得られる環境があれば、育児も仕事もでき、思いやれるゆとりも出る。（40代女性）
- ・ 育児休暇は男女共にある。介護で仕事を辞めなくていいように、介護休暇制度も創ってほしい。（40代女性）
- ・ 労働時間を短縮すると収入が減るので、控除や補助の仕組みの充実を。出産（産休・育休）や病気でも昇給すれば生活できるので、働く意欲を持てる仕組みが必要。（40代男性）
- ・ 4町村の事業所をサンプリングし調査をする。既に男女共同参画について明らかになっている指標を比較し、4町村の現状について把握する。改善すべき箇所を見つけたら、そこに重点的な施策を行う。（50代男性）
- ・ 働くことは、経済的基盤を得るとともに自己実現につながり、性別に関わらず一人ひとりが能力を発揮できる環境づくりが人権の視点からも大事。少子高齢化、労働力不足のために働く人材の確保は必要。正社員として、家族形態やライフスタイルに応じて短時間勤務等の働き方を選択し、育児・介護等と両立できれば、地域の活性化、個の活力につながる。（60代女性）
- ・ 男女共同参画社会の実現は、女性が働きやすい環境と子どもを産み育てやすい環境の整備の推進に尽きる。これにより第2、第3子の出生が増え、人口減少の歯止めとなる。この2つの施策を連携させ同時併行で進めるべき。（60代男性）
- ・ どうすれば職場がうまくいくか話し合い、課内で仕事を補い合える信頼関係がつくる。（70代女性）
- ・ 女性はパソコンを使った事務等を早くできるので、職員採用を平等にしてほしい。（年代不明男性）

■教育・学習（7件）

- ・ 昭和、平成生まれには男女平等の意識付けは難しく、時間がかかるので、小学生から男女平等教育が大事。
(30代女性)
- ・ 男女共同参画社会については、自分には関係ないと思う人や自分は意識が高いという人に限って理解・実践に乏しいので、行政は学びや研修の機会をしっかりと作ることが必要。それは人権学習と重なる。一人ひとりを大切に家庭教育の充実を図り、大人がまずその模範とならなければならない。(40代女性)
- ・ 研修の充実が必要だが、研修で住民の意識を変えることは難しい。大人より子どもたち向けの講座や教育が意識改革につながると思う。(40代女性)
- ・ 男女共同参画については、研修では表面的な理解で終わるので、集落や家庭の慣習等から理解させることが必要。田舎は優しいとか住みやすいと言うが、高齢になった今から先が不安でたまらない。(70代女性)
- ・ 小学生、特に低学年（女の子）に将来何になるかと問うと、保育の先生やパティシエで、総理大臣、社長、科学者は出てこないで、この年代からの教育が必要。(70代男性)
- ・ 例えば大学までの授業料を無料にして、男女に関わらず能力を最大限に伸ばせる社会であってほしい。政治家が本気で考えたら、親の経済力に関係なく意欲と能力があれば誰もが最高の教育を受けられることは可能になる。
(70代男性)
- ・ 男女共同参画に必要な研修活動を充実する。(80歳以上男性)

■町民が抱える困難な問題への対応（3件）

- ・ 一人親でも自立できるように仕事の待遇や給付等の援助があれば、DV等で問題のあるパートナーから逃げる
ことができると思う。(40代男性)
- ・ 令和6年4月1日から施行される通称「困難女性支援法」に基づいて策定が努力義務化された「困難な
問題を抱える女性の支援に関する市町村基本計画書」の早期策定を要望する。その策定が遅れると、法律は
施行されているのに、「困難な問題を抱える女性」の方々が、町の男女共同参画行政に参画できていない
ことになる。(60代男性)

■地域活動や政治・行政の場（2件）

- ・ 地域の活動を「婦人会」「青年団」など性別や年齢で分けて、「婦人会」に料理、老人会や壮年団へお酒を運び、
お酌といった役割が固定化されていても、誰もおかしいと思っていない。地域活動が、子ども達にそれが
当たり前と教育をする場になってしまっている。まずは、役場（行政）が「婦人会」というカテゴリーを
無くすように誘導すべき。(40代女性)
- ・ 町政において女性が活躍できる場をもっと増やしたらいいと思う。龍郷町はまだ男性優位だと感じる。
(50代女性)

■全体（13件）

- ・ 男女の割合が1：1だと平等になっていると単純にはいえないので、私たちがにかけている「平等」とい
うゴールがどこにあるのか、もっと目に見えて理解できる理想の未来について話し合ったり、絵のようなものに
表現するのがいいかもしれない。(10代男性)
- ・ これからは個々の考えや能力に焦点をあて、個々が自己実現できることが大切。(30代男性)
- ・ 特に高齢者を見ていて、島は男性社会だと感じる。(50代男性)
- ・ 女性を増やすことのみ重視する政策には疑問を持っていたが、「性別に関わりなく、その個性と能力を十分
に発揮できる社会」の実現は重要。女性が能力を発揮するため、能力養成の妨げや差別を除去することに重点を
おくべき。(50代男性)
- ・ 形式的ではない、もっと根源的な組織を作り、幅広く啓発活動を展開していくべき。私自身は男性としての
生きづらさや不便さを感じていないが、私に関わる企業の多くで低賃金、長時間労働、疲弊感、疲労感、貧困、
差別、子育てや介護の悩みなどを抱える労働者が多数存在している。(60代男性)
- ・ 過去も今も共働きの家庭は女性の負担が重い。日光市で行われた「先進国7カ国（G7）男女共同参画女性活躍
担当相会合」の出席者は、議長を務めた日本の担当相だけが中年男性で、日本以外は全員女性。日本は世界と
比べて遅れている。政治、行政、社会で女性も活躍し、男性は主夫業に取り組んでほしい。(70代女性)

■調査について（5件）

- ・ 長い時間かけて少しずつしか変化はないと思うが、必ず必要としている人はいるので頑張ってください。
(30代男性)
- ・ 「男性は外で働き女性は家庭」について、時代遅れの質問をせざるを得ないほどの地域なのかと感じる。
(50代女性)
- ・ 4町村が足並みをそろえて進めていくことを大いに期待している。子や孫達が生活しやすい環境
のため「健康」「教育」「経済」「政治」の全てにおいてのジェンダーギャップを取り払っていきけるように頑張って
いきましょ！(70代女性)



以下の計画と報告書を町の HP に掲載しています。

- ・ 龍郷町男女共同参画推進総合計画
- ・ 龍郷町男女共同参画推進総合計画【概要版】
- ・ 龍郷町男女共同参画に関する住民意識調査報告書
- ・ 龍郷町男女共同参画に関する住民意識調査結果の概要（グラフ版）
- ・ 龍郷町男女共同参画に関する住民意識調査報告書【概要版】

龍郷町企画観光課

〒894-0192 鹿児島県大島郡龍郷町浦 110 番地

TEL : 0997-69-4512

E-mail : kikakukanko@town.tatsugo.lg.jp